



三井広報委員会50年史



3

ご挨拶

創立50周年を迎えて

三井広報委員会 委員長 小野澤 康夫

4

祝 辞

50周年に寄せて

6

概 要

8

現在の主な活動

12

50年のあゆみ

24

最近の出来事

26

会員会社紹介

ご挨拶

創立50周年を迎えて

2022年、三井広報委員会は創立50周年を迎えました。これもひとえに皆様のご理解とご支援、また会員各社による弛みない努力の賜物と、深く感謝しております。

当会は、企業が経済活動のみならず社会に貢献していくべきという社会的責任が求められる中、前身の広報活動団体「三広会」を発展的に解消して1972年4月1日に発足いたしました。以降、当会は社会の繁栄と福祉に寄与するため、個々の企業だけでは成し得ないスケールと内容をもって、国際交流活動や文化事業などに取り組んでまいりました。

2020年以降、コロナ禍でさまざまな活動が影響を受けておりますが、そうした中でも当会が提供している、プロ野球の守備の名手を表彰する「三井ゴールデン・グラブ賞」は、昨年50回を迎えました。また2015年に創設した、日本の伝統工芸界において未来に繋がるものづくりに取り組み、発展させている担い手の方々を顕彰する「三井ゴールデン匠賞」は4回を数えました。参加人数を限定するなど縮小はしましたが、いずれも式典を開催することができ、受賞者の皆様の喜びに直に触れることによって、当会の活動の意義を改めて強く感じております。

三井広報委員会は、これからも会員各社の団結の下、クオリティにこだわりながら各事業を継続発展させ、社会の繁栄と福祉に寄与していきたいと考えております。

今後とも皆様の変わらぬご支援とご協力をお願い申し上げます。



小野澤 康夫

三井広報委員会 委員長
(三井不動産株式会社 代表取締役副社長執行役員)

祝辞

50周年に寄せて

50



坂谷内実氏

公益財団法人
日本リトルリーグ野球協会会長、
三井物産OB



全日本リトルリーグ野球選手権大会で三井広報委員会からTシャツを贈呈(2018年、2019年の模様)

三井広報委員会の創立50周年にあたり、心よりお祝いを申し上げます。

私共日本リトルリーグ野球協会は創立58年となりますが、長く三井広報委員会とはお付き合いをさせていただいております。

リトルリーグ活動はアメリカ・ペンシルバニア州にて1939年ごろ開始されました。日本では東京オリンピックの1964年に活動を開始し今日に至っています。日本でのリトルリーグ活動の普及については早くからアメリカとの交流を重視する三井物産およびフジサンケイグループが寄付金協賛金などの提供で後援者となり今日に至っております。

三井物産の助言もあり三井広報委員会からはリトルリーグの全国大会などに参加賞などの賞品を寄贈いただいており、子供たちおよびその保護者より感謝されています。

三井広報委員会から賞品をいただいた多くのリトルリーガーの中に大谷翔平選手、山田哲人選手そして今年からMLBに移籍した鈴木誠也選手などたくさんの方がいます。日本のみならず世界に広がる活動に御礼申し上げます。

リトルリーグは世界で200万人が関係する世界最大の少年少女野球団体であり、今後も世界の野球を愛する子供たちの夢と希望にかかわって参ります。

これからも末永く三井広報委員会の皆様のご支援をお願いしてご挨拶いたします。

三井広報委員会ならびに関係者の皆様のご発展を祈念いたします。



宮本慎也氏

三井ゴールデン・グラブ賞10回受賞、
三井ゴールデン・グラブ野球教室講師



2012年にはセ・リーグ最多受賞となる自身10回
目の三井ゴールデン・グラブ賞受賞



三井ゴールデン・グラブ野球教室ではこれまで8
回、講師を務めている

三井広報委員会の創立50周年、本当におめでとうございます。

私は守備を買われてプロ野球に入ったということもあり、レギュラーになってからは、三井ゴールデン・グラブ賞は最大の目標でした。プロ野球生活の中で常に意識していて、何が何でも受賞したいと思っていた賞です。

打撃はもちろん、足の速い選手には「盗塁王」のタイトルがありますが、守備には公式タイトルがありません。ですから、三井ゴールデン・グラブ賞は、守備を売りにしている選手にとっては本当に嬉しい賞ですし、タイトルだと思っています。現役のプロ野球選手も、多くの選手が目標にしています。

また、三井ゴールデン・グラブ賞の受賞OBが講師を務める三井ゴールデン・グラブ野球教室ですが、子どもではなく少年野球の指導者を対象としているのは非常に良い試みだと思います。子どもたちにどう教えれば良いのか、迷っている指導者の方たちもたくさんいらっしゃいます。私も講師としてこれまで8回参加しましたが、まだまだ参加し足りません。これからも地道にこの活動が続けていくことで、野球の楽しさや正しい知識が広がっていくことを期待しています。

三井広報委員会は、三井ゴールデン・グラブ賞や三井ゴールデン・グラブ野球教室という、野球界にとって非常にありがたい取り組みをさせていただいている存在です。これからも引き続き、野球界にご協力いただければ、大変嬉しく思います。



福島武山氏

第1回三井ゴールデン匠賞受賞、
第4回同賞審査員



第1回三井ゴールデン匠賞贈賞式の模様



第4回三井ゴールデン匠賞では審査員を務めた

三井ゴールデン匠賞は今回、4回目となりました。伝統工芸に携わる者のために立派な賞を創設していただき、本当に感謝しております。

実は第1回の応募は自信がなく、ためらっていましたが、応募書類を書くことによって、40数年間、自分が何をもちて仕事に取り組んできたのかを振り返ることができたのは、非常に良い機会だったと思います。

石川県立九谷焼技術研修所で生徒たちと出会い、消えかかっていた赤絵の活性化を若い人たちと歩んできた、そういう活動で思いがけず匠賞に選ばれたことは驚きと喜びでした。

第4回は審査員として参加しました。第3回までは受賞者が男性ばかりでしたが、今回は女性の受賞者が選ばれたことは良かったと思います。審査員特別賞と奨励賞を新設したのも、審査に悩むなかで、嬉しいことでした。

今、伝統工芸はコロナ禍によりインバウンド熱が消え、静かになってしまっています。審査では、自分のことだけでなく産地を巻き込み、活性化に取り組む人たちを選びました。そういう人たちが選ばれるのが、三井ゴールデン匠賞の良いところです。

賞が回を重ねるごとに受賞者が増え、三井グループにとっても大きな財産になると思います。いつか受賞者を集めて、三井広報委員会の会員でもある三越伊勢丹で、展示会をできれば素晴らしいものになるでしょう。

今後とも、「匠」に光を当てて、取り上げていただけると嬉しく思います。

三井広報委員会の 概要

行動理念

三井広報委員会は、三井グループ各社がまとめ、
様々な文化活動および広報活動を通じて、国際交流や地域社会の活性化に貢献するとともに、
社会の繁栄と福祉に寄与し、三井グループのより一層のイメージ向上を目指します。

1

国際文化交流の推進

三井広報委員会は、国際間の相互理解の促進を図るため、国内外において主催・協賛する各種イベントを通じて、優れた芸術・文化を広く紹介し、国際文化交流を進めます。

行動指針

3

広報活動の推進

三井広報委員会は、三井グループ各社の活動について国内外に広く理解と支援を得るため、多様なメディアを通じて、積極的な広報活動を展開します。

2

地域文化活動の活性化

三井広報委員会は、日本国内において各地域の主体的参画による芸術・文化活動を後援し、地域社会の活性化に貢献します。

三井 広報委員会 とは

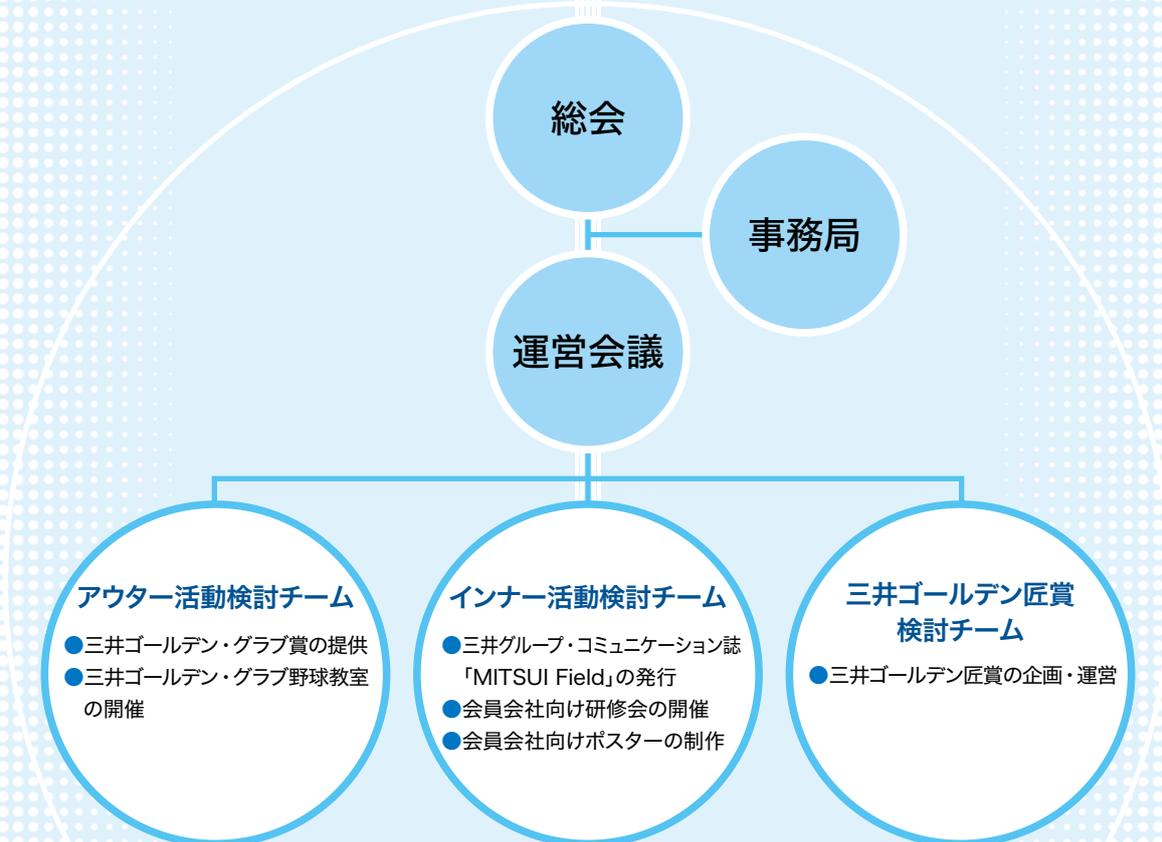


企業グループの広報活動は、社会との接点に位置しながら、「グループの考え」「グループの真の姿」を社会に伝えて理解を得るところにあります。このような考え方から、個々の企業がそれぞれ独立して単独に努力するだけではなく、グループ企業が力を結集して、一企業で成し得ないようなスケールと内容をもって、社会への還元を図ることも大きな意味を持つという共通認識を持ち、1972年(昭和47年)4月1日、前身の「三広会」(三井系8社の広報活動母体)を発展的に拡充し「三井広報委員会」を発足しました。現在、三井広報委員会の会員会社は24社を数えています。

歴代会長/委員長

若杉 末雪 (1972年4月就任)	飯野 健司 (2015年6月就任)
池田 芳蔵 (1973年6月就任)	小野澤康夫 (2016年6月就任)
八尋 俊邦 (1979年6月就任)	大島 眞彦 (2017年6月就任)
熊谷 直彦 (2002年6月就任)	太田 純 (2018年6月就任)
菰田 正信 (2009年6月就任)	藤井 晋介 (2019年6月就任)
久保 哲也 (2011年6月就任)	大間知慎一郎 (2020年6月就任)
木下 雅之 (2013年6月就任)	小野澤康夫 (2021年6月就任)

組織図



三井広報委員会の 現在の主な活動

三井ヒューマンプロジェクト事業

三井ヒューマンプロジェクトは、「人の三井」という三井グループらしさをベースに「人を大切に、多様な個性と価値を尊重することで社会を豊かにする」ことを目的とした、「三井広報委員会会員会社」「三井グループ全体」「三井広報委員会」のそれぞれが行う社会貢献活動を世の中に発信するための総称です。



ロゴにこめられた想い

人のモチーフをロゴの一部として採り入れ、人を大切に考えるヒューマンプロジェクトの理念を象徴させました。手を上げたシルエットが、自由闊達で活力ある三井グループの気風と、人が伸びやかに育っていく様子を表現しています。



三井ゴールデン・グラブ賞

プロ野球セ・パ両リーグの“守備のベストナイン”を表彰

三井ゴールデン・グラブ賞は1972年にダイヤモンドグラブ賞としてスタートし、1986年に現在の名称になりました。

日本プロ野球セ・パ両リーグの第三者公式表彰として制定される本賞は、毎年卓越した守備によりチームに貢献した選手を、新聞社・通信社・テレビ局・ラジオ局のプロ野球担当記者（現場取材経験5年以上）による投票で選ぶ、権威ある賞のひとつです。その年守備で最も輝いたベストナインの選出に、毎年多くの期待が寄せられています。

【選考対象となるプレイヤーの資格】

- 投手は規定投球回数以上投球していること、またはチーム試合数の1/3以上登板していること
- 捕手はチーム試合数の1/2以上捕手として出場していること
- 内野手はチーム試合数の1/2以上1ポジションの守備についていること
- 外野手はチーム試合数の1/2以上外野手として出場していること

【三井ゴールデン・グラブ賞 アラカルト】

(2022年度までの記録)

	パシフィック・リーグ	セントラル・リーグ
最多受賞回数	福本 豊(急)⑫	山本 浩二(広)⑩ 駒田 徳広(横)⑩ 古田 敦也(ヤ)⑩ 宮本 慎也(ヤ)⑩ *遊撃手で6回、3塁手で4回受賞 菊池 涼介(広)⑩
最多連続受賞	福本 豊(急)⑫ 12年連続 / 1972～83年	山本 浩二(広)⑩ 10年連続 / 1972～81年 菊池 涼介(広)⑩ 10年連続 / 2013～22年
最年長受賞	稲葉 篤紀(日) 2012年 / 40歳2カ月	宮本 慎也(ヤ) 2012年 / 41歳11カ月
最年少受賞	松坂 大輔(武) 1999年 / 19歳1カ月	立浪 和義(中) 1988年 / 19歳2カ月
満票受賞	大橋 穰(急) 1972年 有藤 道世(口) 1974年 福本 豊(急) 1976～79年 梨田 昌崇(近) 1979年 秋山 幸二(武) 1990年	堀内 恒夫(巨) 1972年 高田 繁(巨) 1972年 王 貞治(巨) 1974年 山本 浩二(広) 1975～79年 飯田 哲也(ヤ) 1992年

※丸数字は受賞回数 ※球団表記は最終受賞時の所属



各受賞選手のグラブをかたどって作られるトロフィー

2021年度に50回を迎えた。コロナ禍の影響により表彰式には6選手の出席となった

三井広報委員会



三井ゴールデン・グラブ野球教室

三井ゴールデン・グラブ賞受賞実績のある講師陣による“指導者”のための野球教室

三井ゴールデン・グラブ賞を受賞した元プロ野球選手を講師に招き、“守備”を中心とした野球の基本技術とその指導方法について分かりやすく教える「少年野球指導者のための野球教室」です。

2010年よりスタートした本教室では、子どもたちの身体に負担をかけない、ケガをしないための正しい練習および指導方法を指導し、あわせて野球理論の講義を行います。本教室を通じて指導者の皆さまに正しい野球知識を習得し、日々の指導に役立てていただくことで、ひたむきにプレーする子どもたちの夢を応援します。



第20回 越谷教室(2019年) 講師陣



指導者講習会



投球指導



実際に体を動かしながら学ぶ



エムサービスによる食育講座



三井ゴールデン匠賞

日本の伝統工芸における「未来につながる取り組み」を評価

伝統文化における革新性とは何でしょうか。

三井広報委員会は、日本の伝統を継承しながら未来につながるものづくりに真摯に取り組み、さらに発展させている伝統工芸の担い手の活動にそれを見出しました。

私たちは三井ゴールデン匠賞を通して、日本の伝統を次世代につなぐ取り組みを応援していきます。



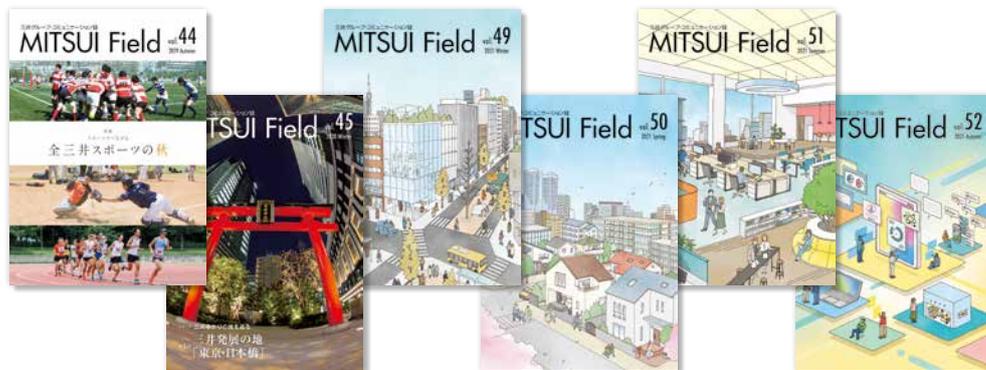
2022年3月の贈賞式では9組の受賞者を表彰した(鳥城紬保存会はオンライン参加)

受賞者によるトークイベントや展示会への出展で賞をPR

INNER COMMUNICATION MITSUI Field

三井グループのコミュニケーション誌

三井グループ各社が活躍する分野（Field）と、そこで働く人々を幅広く紹介する三井グループのコミュニケーション誌を年4回発行しています。各社社員が相互理解を深め、三井ブランドの向上をグループ内から促進する働きかけとして制作。三井の歴史やゆかりの地、各社社員のオン・オフタイムなど、毎月多彩な内容を掲載しています。



INNER COMMUNICATION 会員会社向け研修会

会員会社の相互理解と、広報部門のレベルアップを目指して

三井広報委員会では、会員各社の相互理解促進と各社広報部門のレベルアップを目指して各種研修会を開催しています。ディスカッションやグループワーク、施設見学会などを通じ、様々な発見や刺激を受ける「学びの場」を提供しています。



研修会風景



INNER COMMUNICATION 会員会社向けポスター制作

グループ意識の醸成・向上のために

三井広報委員会では、会員各社におけるグループ意識の醸成や向上を目的に、毎年インナー向けのポスターを制作しています。その年ごとにテーマを設け、会員各社の若手社員にモデルとして登場していただきます。



2020年



2021年



2022年



DVD「三井のころ」

自由闊達な三井の気風を紹介する、社員向けツール

350年の歴史を誇る、三井の事業精神や先見性・創造性を改めて知っていただくため、グループの社員向けに制作したツールです。「三井家の由来」「三井の事業精神」「三井家から三井グループへ」「人の三井」「三井グループのこれまで、そして未来」の内容で構成しています。



DVD画面 ※ダイジェスト版はホームページでもご覧いただけます。



DVD
(33分版・15分版)

三井グループ関連施設



三井記念美術館

三井家旧蔵の優れた美術工芸品を展示

三井記念美術館は、三井家が江戸時代から収集した美術品約4,000点（国宝6点、重要文化財75点、重要美術品4点を含む）を所蔵・公開しています。

展示室では、洋風建築の空間に日本と東洋の美術品を展示し、伝統的な「造形の美」と「用の美」を鑑賞することができます。三井家とゆかりの深い国宝茶室「如庵」内部の再現展示では、季節の茶道具を取り合わせることもあります。

また、館蔵品だけでなく、様々なテーマに沿って館外から作品を借りて展示する「特別展」も企画・開催しています（常設展示なし）。

【公式ホームページ】 <https://www.mitsui-museum.jp>



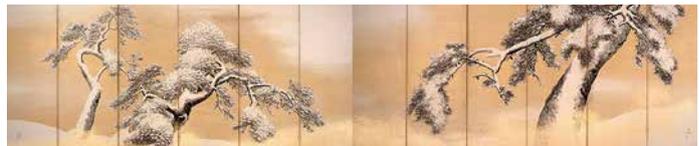
展示室



重要文化財「黒染茶碗 銘俊寛」



国宝「志野茶碗 銘卯花墙」



国宝「雪松図屏風」 円山応挙筆



三井記念病院

社会福祉の精神で慈善病院から発展

三井記念病院は、1909年、三井11家（総代三井八郎右衛門・高棟氏）の寄付（当時の100万円）により、「三井慈善病院」として下谷和泉橋通り（現千代田区神田和泉町）の東京帝国大学医科大学附属第二医院跡地に開院しました。

生活困窮者を対象に無料で治療を行うという設立趣旨を受け継ぎ、以来一貫して「社会福祉の精神」のもと、患者一人ひとりの立場に立ちながら、患者と医療者がともに生きる医療の実践に努めています。

また、医療を通じて地域への貢献活動や研究・教育活動などさまざまな活動も行っております。

【公式ホームページ】 <https://www.mitsuihosp.or.jp>



総合受付



病室



外観

三井グループの広報活動を共同で行う「三広会」がスタート

1960年12月、東京都中央区日本橋室町にある三井本館に、三井銀行（現・三井住友銀行）、三井物産、三井化学工業（現・三井化学）、三井金属、三井石油化学工業（現・三井化学）、三井精機工業、三井造船（現・三井E&Sホールディングス）、三井船舶（現・商船三井）の8社が集まり、三井グループとして国内外向けに広告宣伝を共同で行うことを目的に、1961年1月1日を期して現在の「三井広報委員会」の前身となる「三広会」を設立することが決まりました。

当時は戦後の成長期のなかで各企業グループの求心力が求められていた時期で、すでに三菱グループや住友グループでは共同でテレビ番組を提供するなどしており、三井グループ内でもPRの共同化を求める声が高まっていました。

三広会は設立と同時に、当時三井物産が提供していたテレビ番組『兼高かおる 世界の旅』の正月特別番組にグループ各社で共同参加するというかたちで、三井グループのPRを具体化。同年7月からは三井物産の単独提供から三井グループの共同提供に変わり、1972年には現在の三井広報委員会へと引き継がれ、三井グループとして16年間にわたってスポンサーを務めました。

「三広会」を発展的に解消し、新たに「三井広報委員会」が発足

1972年4月、三広会を発展的に解消し、三井広報委員会を発足。三

広会は、企業が単に経済活動を行っていけば良いという時代は終わり、これからは企業も社会との調和や社会貢献に努力していかなければならないこと、また、三井グループが発展していくためには、「グループの考え」や「グループの真の姿」を社会に伝えて「理解」を得ることが必要であり、社会に認められるための「努力」が重要であると考えました。

そして、三井グループの真の姿を社会にアピールするためには、個々の企業がそれぞれ単独に努力するだけでなく、グループ企業が総力を結集して一企業では成し得ないようなスケールと内容をもって社会貢献を行うことが不可欠であることから、当時19社で構成されていた三広会をさらに拡充し、新たにグループ31社を結集した三井広報委員会をスタートさせました。

三井広報委員会の目的は、国内や海外における三井グループの広報活動を推進し、社会の繁栄と福祉に寄与する三井グループのイメージを高めて広く内外に定着させることにあり、この目的を達成するために常に会員各社が知恵を出し合いながら時代の要請に的確に応える活動を展開し、今日に至っています。

『三井グラフ』が三井広報委員会の広報誌となる(1980～2005)

1980年、三井広報委員会は三井物産が1970年より発行してきた広報誌『三井グラフ』（季刊）を42号から引き継ぎ、三井グループ外へ向けてのPR誌として編集発行。三井グループの活動を広く一般の方に知っ

1980年代

1977年 [昭和52年]

- 「兼高かおる 世界の旅」の提供を終了し、新たにクイズ番組「世界をあなたに」を提供。

1978年 [昭和53年]

- 「世界をあなたに」に替わり、世界各国の経済、文化、芸術などを紹介しながら、日本との関係をテーマにした教養番組「世界にかける橋」の提供開始、1982年まで続ける。80年からは、番組中に鳥飼玖美子氏の「ワンポイント英語コーナー」を設けて好評を博す。⑥



⑥ テレビ番組「世界にかける橋」に登壇した鳥飼玖美子氏の「ワンポイント英語コーナー」

1980年 [昭和55年]

- 三井物産より「三井グラフ」の企画・編集・発行を引き継ぐ(42号より)。⑦



⑦ 三井広報委員会発行となり最初の「三井グラフ」42号

1981年 [昭和56年]

- 360度パノラマ展望が楽しめる東京・霞が関ビルの36階に、三井グループの活動をパネルや写真で紹介する「三井スカイプロムナード」をオープン。連日500人近い入場者でにぎわう(1990年公開終了)。⑧



⑧ 霞が関ビル36階にオープンした「三井スカイプロムナード」

てもらい、そのイメージアップを図ることを目的にスタートさせました。

1990年には当初の「三井グループ外向けのPR誌」というコンセプトを、グループ各社社員にも三井広報委員会の活動を理解してもらうために「三井グループ内外向けPR誌」に改め、グループ各社に加え全国の図書館、宿泊施設、病院などにも配布し、グループ内外に幅広く親しまれる広報誌を目指しました。

(2005年141号をもって休刊)

全国各地へ日本を代表する知性ととの出会いの場を提供する

『三井シンポジア・トゥモロウ』(1983～98)

1980年代、首都圏のみならず全国各地の産業や文化が活発になっていく時代の潮流のなか、三井広報委員会は各地の文化活動を応援していく方針を決め、その具体化を探っていました。

そこで、1974年から三井物産が各都市で開催していた地域文化の活性化に貢献する三井教養セミナー「学びの出発」を引き継ぐかたちでさらに内容を充実させ、1983年からは地域社会の主体性と参加性を重視した新しいシンポジウム形式の文化活動『三井シンポジア・トゥモロウ』をスタートさせました。

コンセプトは、“学び・考える”ことに真剣に取り組んでいながら中央の文化に接する機会が少ない全国各地の人たちに、日本を代表する優れた知性ととの出会いを提供しようというもので、地元の自主性にポイントを置

いた地元主導型のセミナー（講演会）として行うところが大きな特徴でした。しかし、スタート当時は珍しかったこの種のセミナーも、90年代に入ると全国各地で頻繁に行われるようになり、“開拓者”としての役割は終わったとの認識で、1998年3月を最後に終了することになりました。

『三井シンポジア・トゥモロウ』は、16年という長期間にわたって、全国約370カ所で開催され、その聴講者の数は延べ13万人以上となりました。

日本の現代文化を海外に紹介する

『クローズアップ・オブ・ジャパン』をスタート(1983～98)

経済大国として世界経済への日本の影響力が大きくなるにつれて諸外国からの誤解や摩擦が増え、深刻な問題になりつつあった80年代。原因が、相互のコミュニケーション不足とカルチャーギャップにあるのは明らかでした。

世界と日本の相互理解の溝が深まっていく現実を目の当たりにし、孤立感を強めていく日本の状況を憂慮した三井広報委員会では、現代の文化を中心として日本のありのままの姿を世界中の人々に紹介し、そこから日本に対する真の信頼と理解を得ることを目的とした企画を検討しました。それが『クローズアップ・オブ・ジャパン』というかたちになり、1983年にスタートすることになったのです。

それまでの日本の紹介といえば、貿易を目的とした商品の展示や古い

1980年代

1983年[昭和58年]

- 全国各地で日本を代表する知性ととの出会いを提供しようと、各界の第一線で活躍中の多彩な講師陣をそろえたシンポジウム形式の文化活動「三井シンポジア・トゥモロウ」をスタート。^⑨
- 日本の現代文化を海外に紹介し、国際間の相互理解を深めることを目的とした国際文化交流事業「クローズアップ・オブ・ジャパン」の第1回をサンフランシスコで開催。^⑩日本の“生の文化”を紹介する民間初の文化交流活動として、国内外で注目を集める。



⑨「三井シンポジア・トゥモロウ」

1985年[昭和60年]

- ロンドンで開催された「第2回クローズアップ・オブ・ジャパン」には浩宮殿下(現天皇陛下)が来場されるなど、皇室の方々や各国の重鎮も来場された。^⑪

1986年[昭和61年]

- 三井広報委員会が従来の「ダイヤモンドクラブ賞」の提供を引き継ぎ、「三井ゴールデン・クラブ賞」と名称を改め、新たなスタートを切る。^⑫



⑩「第1回クローズアップ・オブ・ジャパン」三宅一先生 ポディ・ワークス



⑪「第2回クローズアップ・オブ・ジャパン」オープニングセレモニーには浩宮殿下(現天皇陛下)も来場



⑫三井広報委員会がスポンサーとなり新たなスタートを切った「第15回三井ゴールデン・クラブ賞」の表彰式

伝統芸術の紹介がほとんどでしたが、現代の日本の文化が欧米の文化先進国と比べても決して見劣りしないことを示すために日本の多彩な現代文化を紹介することに主眼を置いた、民間として初めての試みとなりました。

第1回目は1983年9月からサンフランシスコで開催され、以降は毎年、ロンドン、ニューヨーク、ミネアポリス&ロサンゼルス、パリ、シドニー、バンコク、トロント、クアラルンプール、ベルリン、リスボン、アトランタ、サンパウロ&リオ・デ・ジャネイロ、ジャカルタ、ニューデリー、モスクワと、16年にわたって世界18都市で開催し、皇室の方々や各国の重鎮が来場されるなど注目度も高く、毎回熱狂的ともいえる大きな反響を呼びました。優れた日本文化は世界的にも第一級の文化であることが海外の人々にも理解され、文化によるコミュニケーションの輪が大きく広がりました。

『クローズアップ・オブ・ジャパン』は1998年のモスクワを最後に、新たな文化支援活動『三井コラボレーション』に引き継がれることになりました。

プロ野球の守備のベストナインに贈られる

『三井ゴールデン・グラブ賞』の スポンサーに(1986～)

1986年12月、プロ野球の守備のベストナインに贈られる『三井ゴールデン・グラブ賞』の表彰式が東京・大手町の三井物産本社で盛大に行われました。前年度までは三井物産スポーツ用品販売が提供スポンサーとなり『ダイヤモンドグラブ賞』の名称で表彰が行われていましたが、

第15回を迎えたこの年度から三井広報委員会が提供を受け継ぐこととなり、名称も『三井ゴールデン・グラブ賞』に改め新たなスタートを切った最初の表彰式でした。

それまでの表彰は、翌年の開幕戦時期に受賞選手に対して個別に行われていましたが、この年度から12月に受賞選手全員を一堂に集めて表彰することとなり、表彰式は一層華やかなものになりました。また、表彰式には都内の養護施設の子どもたちを招待し、表彰式後の懇親パーティーで憧れの選手とにこやかに話す風景なども見られました。

2008年からは表彰式の開催を夜から昼にうつし、毎年多くの報道陣が集まるなか、その年の守備のベストナインの表彰に注目が寄せられています。『ダイヤモンドグラブ賞』として本賞が制定された1972年から40周年に当たる2011年には、記念特別番組（BSフジ）や記念冊子を制作し、40年の軌跡をあらためて振り返りました。

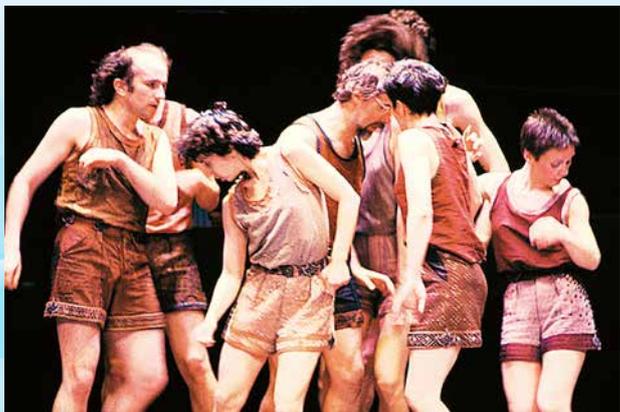
また第40回表彰式には、ゲストにセ・パ両リーグの最多受賞回数記録を持つ福本豊氏（元阪急ブレーブス）と山本浩二氏（元広島東洋カープ）を迎え、受賞選手にゴールデン・グラブトロフィーを手渡すプレゼンターを務めていただきました。

そして2021年、本賞は記念すべき50回の節目を迎えました。新型コロナウイルスの感染拡大を受け、表彰式は前年に続き縮小して開催。初受賞の選手5名と、両リーグを通じ最多得票を獲得した甲斐拓也選手（福岡ソフトバンクホークス）に、黄金のトロフィーを贈呈しました。式には、

1990年代

1988年 [昭和63年]

●世界各国の代表的な現代演劇人やグループなどを招いて、生のステージを紹介する「三井フェスティバル東京」をスタートさせ、1996年まで隔年で計5回開催。演劇をはじめ、ダンス、パントマイムなど日本で初めて紹介されたプログラムも多く、観客に新鮮な感動を与える。⑬



⑬「第1回三井フェスティバル東京」。日本および韓国の劇団の演劇上演のほか、フランスとブラジルのダンス、インドの古典舞踏を紹介

1992年 [平成4年]

●三井広報委員会創立20周年を記念して「山下洋輔ピアノコンサート」を開催。⑭



⑭三井広報委員会20周年記念「山下洋輔ピアノコンサート」

1995年 [平成7年]

●「三井グラフ」100号記念号を発行（創刊25周年）。その後2005年141号をもって休刊。

特別ゲストとして第1回から第9回まで9年連続で本賞を受賞している王貞治福岡ソフトバンクホークス会長が来場。式で祝辞の言葉をいただいたほか、王会長と小野澤康夫三井広報委員会委員長との対談も実現し、その模様は三井広報委員会のウェブサイトに掲載されています。

また、50回を記念した特別企画「三井ゴールデン・クラブ レジェンズ」を実施。歴代受賞者の内3回以上の受賞経験者を対象に、一般投票で「最強の守備陣」を選ぶもので、プロ野球ファンから約3万票が集まった結果、投手：桑田真澄氏、捕手：古田敦也氏、一塁手：王貞治氏、二塁手：菊池涼介選手、三塁手：中村紀洋氏、遊撃手：井端弘和氏、外野手：イチロー氏、新庄剛志氏、秋山幸二氏が選ばれました。

東京で本格的な国際舞台芸術祭

『三井フェスティバル東京』を隔年開催(1988～96)

三井広報委員会は、内から外への国際交流として『クロースアップ・オブ・ジャパン』を世界各地で開催しましたが、1988年からは外から内への文化事業として、東京で本格的な国際舞台芸術祭『三井フェスティバル東京』の開催をスタートさせました。

当時、世界各地で舞台芸術のフェスティバルは盛んに行われていましたが、国内ではほとんど実績がなく、国際都市・東京に世界の舞台芸術が集まる祭典がないのはいかにも寂しいということで、東京で初めて国際的な芸術祭を開くことになりました。『三井フェスティバル東京』は、

1988年から1996年までの隔年に計5回開催し、日本の舞台芸術界に大きな足跡を残しました。

三井広報委員会の20周年を記念し、『山下洋輔ピアノコンサート』を開催

1992年は、三井広報委員会が発足してからちょうど20周年、『クロースアップ・オブ・ジャパン』のスタートから10年目に当たる年となり、これを記念して11月に東京・池袋の東京芸術劇場大ホールで『山下洋輔ピアノコンサート』を開催しました。コンサートは『クロースアップ・オブ・ジャパン「トロント1990」』でのコンサートを再現したもので、和太鼓のレナード衛藤氏との二重奏や井上道義氏指揮の新日本フィルハーモニー交響楽団との協奏「ラブソフィー・イン・ブルー」も演奏され、会場を熱気の渦に巻き込みました。

コンサートの後、会場に隣接するホテルで20周年記念のレセプションを開催し、各界諸氏やマスコミ関係者など約400人が列席。挨拶に立った八尋俊邦三井広報委員会会長（当時）は、「三井グループの文化支援活動を景気の動向などに左右されることなく持続させ充実させていく」と力強く誓い、会場は大きな拍手に包まれました。

三井広報委員会の国際文化支援活動が『外務大臣表彰』受賞

1998年7月8日、『クロースアップ・オブ・ジャパン』などの開催を通

1990年代

1998年 [平成10年]

- 「三井シンポジア・トゥモロウ」の特別企画「誰でもわかるオペラ入門」を東京で開催。
- 「クロースアップ・オブ・ジャパン」や「三井フェスティバル東京」などの文化活動が国際交流に果たした貢献度が評価され、外務大臣表彰を受ける。¹⁵
- 「クロースアップ・オブ・ジャパン」「三井シンポジア・トゥモロウ」などの文化事業を見直し、新たな文化支援活動「三井コラボレーション」をスタート。¹⁶ 国内第1弾は沖縄県那覇市でりんげんバンドとの共演による「国府弘子サウンドスケッチ in ジャパン」。

1999年 [平成11年]

- 「三井コラボレーション」海外第1弾は1999日中文化友好年事業の一環として、日本側の主役に和泉元彌氏を起用した楽曲劇「天人」を北京で開催。
- 社会貢献活動の一環として、障がいのある方々が働く小規模共同作業所で作られた商品を販売する「ふれあいマーケット」の1回目を「三井コラボレーション」の会場(札幌)で開催。¹⁷



¹⁵ 小淵恵三外務大臣(当時)から「外務大臣表彰」を受ける八尋俊邦三井広報委員会会長(当時)



¹⁶ 「三井コラボレーション」記者発表会(1998年12月)



¹⁷ 「ふれあいマーケット」

して国際文化交流の推進に貢献した功績に対し、外務省から『平成10年度外務大臣表彰』が授与されました。授賞理由は「同団体は三井グループ各社が参加して、わが国の現代芸術を海外に紹介する『クローズアップ・オブ・ジャパン』を諸外国において毎年開催、さらに外国の舞台芸術をわが国に紹介する『三井フェスティバル東京』を隔年開催し、これらの事業を通じてわが国と諸外国との国際文化交流および相互理解の増進に多大な貢献をされた（要旨）」というものです。

東京・港区の外務省飯倉公館で行われた表彰式では、小淵恵三外務大臣（当時）から八尋俊邦三井広報委員会会長（当時）に表彰状が手渡され、民間企業関連では唯一の受賞となりました。

これまでの文化支援活動をさらに進化・発展させた『三井コラボレーション』（1998～2004）

三井広報委員会は、これまで『クローズアップ・オブ・ジャパン』や『三井シンポジウム・トゥモロウ』などの文化事業をスタートさせ、継続させてきました。その努力が実って、海外での現代日本の文化に対する認識を大いに高めるとともに、国内においても人々の文化的関心の高まりに大きく貢献しました。

しかし、当初は珍しかったこれらの事業スタイルも、年を重ねる内にさまざまな団体が頻繁に行うようになり、三井広報委員会が“開拓者”として目指した役割はすでに終えているのではないかという意見が会員会社から

出されるようになりました。こうしたなかで、三井広報委員会では1年以上をかけて21世紀につながる文化事業の新しいスタイルを模索し、その答えとして出てきたのが、これまでの文化事業をさらに進化・発展させた新たな文化支援活動『三井コラボレーション』でした。

各分野で活躍する国内外のアーティストに交流の場を提供し、コラボレーション（共同制作）を通して新しい日本文化の創造を図るもので、アーティストに自らのテーマに取り組む場を提供して国内外で一般公開し、さらにそのプロセスや作品をドキュメント（文化遺産）として残し、さまざまなかたちで活用していくことを目的としています。

1998年のスタート時にこの主旨に共鳴して参加したアーティストは、国内外で活躍するピアニストで作曲家の国府弘子氏、日本を代表するCGアーティスト原田大三郎氏、世界的なアコーディオン奏者coba氏、狂言師の和泉元彌氏、現代邦楽をリードする作曲家の三木稔氏の5人で、12月に行われた記者発表ではそれぞれの立場から期待と抱負が述べられました。また、席上で八尋俊邦三井広報委員会会長（当時）は「新しいものが定着するまでにはこれから実績を重ねていく必要があります。皆さまからの忌憚のない助言をいただき、日本文化を支えるために、絶え間ない支援、努力をしていくつもりです」とその決意を語りました。

その後、2004年に活動を終えるまで、国内はもとより、海外における日本との交流行事にて公演を行うなど、いずれも成功裏に終わりました。

2000年代

2000年 [平成12年]

- 日蘭交流400周年を記念して「三井コラボレーション」の海外第2弾「安倍圭子マリンバコンサート」と、CGアーティスト・原田大三郎氏とテクノミュージシャン・スピーディJ氏のコラボレーションライブをオランダで開催。
- coba氏プロデュースの「三井コラボレーション『光と音のページェント』“天使は空から降ってくる”」を福岡で開催。¹⁸



¹⁸ coba氏プロデュース「三井コラボレーション『光と音のページェント』」



¹⁹ 「リーディングドラマ『天国の本屋』」

2001年 [平成13年]

- 「三井コラボレーション『リーディングドラマ“天国の本屋”』」を開催。以降も各地で再演を重ねる。¹⁹
- 芝居と音楽を融合した「三井コラボレーション『ドラマコンサート“ミッシング・ピース”』」を東京で上演。
- イギリスにおける日本年JAPAN 2001の公式行事として、「三井コラボレーション」の海外第3弾「仮面舞踏劇『天照』²⁰、「ジミー大西×ジェーン・バッカーエキシビション『Energy of Nature』²¹」をロンドンで開催。



²⁰ 「仮面舞踏劇『天照 AMATERASU, The Sun Goddess』」

2002年 [平成14年]

- 「ジミー大西展『Energy of Nature』」を恵比寿ガーデンプレイス、京都駅コンコースにて開催。その後、2004年5月まで全国通算13カ所で開催される「ジミー大西絵画展『世界を巡る絵筆の冒険』」に特別協賛（主催：朝日新聞社）。



²¹ 「ジミー大西×ジェーン・バッカー エキシビション『Energy of Nature』」

『ふれあいマーケット』など三井グループとしての
社会貢献活動を開始(1999～2008)

三井広報委員会では、三井グループが積極的に展開すべき活動は文化支援活動だけにとどまらず、何らかの社会的な貢献も必要ではないかと考え、1999年10月に札幌で開催された『三井コラボレーション』の会場において、三井グループとしての社会貢献活動をスタートしました。

札幌市には、障がいのある方々がさまざまな商品を作りながら社会参加を目指すネットワーク組織“札幌市小規模作業所連絡協議会”があり、その傘下の小規模共同作業所に商品販売の場を提供し、三井グループの社員がエプロン姿でその準備と販売を手伝うことになったのです。

小規模共同作業所とは、障がいのある方々が自分の能力に合った作業を行う規模の小さい施設ですが、当時、その認知度は極めて低いのが現状でした。そこで、これらの作業所で心を込めて作られた商品を三井グループが協力して展示・販売することで、小規模共同作業所の存在を少しでも知ってもらうことができると考えました。

結果は、商品に対する好意的な評価はもちろん、こうした活動に初めて参加したグループ各社の社員からも、社会貢献の大切さを理解することができたとの声が多く寄せられ大成功となりました。そこで、三井広報委員会ではこの活動を『ふれあいマーケット』と名付け、共同作業所の全国組織である共同作業所全国連絡会（共作連）との連携を密にしなが

その後2003年からスタートする『ふれあいトリオ』事業の一環としてコンサート会場マーケットを開催するなど、継続的な活動へと展開していきました。

文化・教育・福祉の支援プログラムとして
『ふれあいトリオ』を開始(2003～08)

2003年4月からは新たな事業として『ふれあいトリオ』を開始しました。“教育+文化支援”を基本路線に、全国各地に国際的に活躍するプロのクラシックの演奏家を派遣し、各地のホールが主催・開催する「ふれあいコンサート」、近隣の小・中学校などでミニコンサートや音楽指導を行う「ふれあいプログラム」、そしてコンサートホールのロビーなどで障がいのある方々の作業所で作られた商品を販売する場を提供する「ふれあいマーケット」を、『ふれあいトリオ』の3つの柱として展開しました。

普段、生の音楽を聴く機会の少ない子どもや高齢者・障がいのある方などに質の高い音楽にふれていただく場を提供するだけでなく、ヴァイオリンの演奏体験や音楽にあわせて体を動かすボディパーカッションなど、聴衆と密着した“ふれあい”により開催地域との一体感を生むイベントとして大きな盛り上がりを見せ、2008年の事業終了までに全国各地で行った公演は約250回、参加者延べ6万人以上を数えました。

2000年代

2003年 [平成15年]

- 文化・教育・福祉の支援プログラムとして全国各地にクラシックの演奏家を派遣する「ふれあいトリオ」をスタート。²² 2008年までに、北海道・根室から鹿児島県・沖永良部島まで、全国各地で約250公演を行う。



²² 『ふれあいトリオ』

2008年 [平成20年]

- 三井グループおよびグループ各社の「人」に焦点を当てた社会貢献活動やさまざまな取り組みを総称したPR「三井ヒューマンプロジェクト」をスタート。²³

2009年 [平成21年]

- 三井グループ社員の相互理解を深めるグループ・コミュニケーション誌「MITSUI Field」を創刊。²⁴
- 三井の事業精神や先見性、創造性をグループ各社にあらためて知っていただくことを目的に、DVD「三井のこころ」を制作。



²³ 「三井ヒューマンプロジェクト」新聞広告 (日経新聞 2009年4月2日付)



²⁴ 「MITSUI Field」創刊号

2010年代

2010年 [平成22年]

- 三井ゴールデン・クラブ賞を受賞した元プロ野球選手を講師とする指導者向け野球教室「三井ゴールデン・クラブ野球教室」をスタート。²⁵



²⁵ 「三井ゴールデン・クラブ野球教室」

三井グループ内の相互理解とグループ意識の醸成を目指してグループ・コミュニケーション誌『MITSUI Field』を創刊(2009～)

野球を中心としたスポーツ支援というアウトター（三井グループ外）向けの活動と並行して、2009年1月、インナー（三井グループ内）向けに、グループ各社の相互理解とグループ意識の醸成を目指して、グループ・コミュニケーション誌『MITSUI Field』（季刊）を創刊しました。

350年という三井の歴史を踏まえて今あるグループ各社社員間の相互理解とコミュニケーションの活性化の一助となるべく、毎号三井の歴史やグループ各社とその社員の情報をさまざまな角度から紹介しています。

2018年10月には創刊から10周年、2021年4月の発行号をもって50号に到達。これまで延べ1,000社を超える企業や施設を紹介してきた本誌は、これからも三井グループ内における貴重な情報共有ツールとして、発行を続けていきます。

少年野球指導者を対象とした『三井ゴールデン・クラブ野球教室』を開催(2010～)

2008年には、「人の三井」という三井グループらしさをベースに、人を大切に多様な個性と価値を尊重することで社会を豊かにしたいという想いを込めて『三井ヒューマンプロジェクト』を立ち上げました。

その一環として2010年3月より、三井ゴールデン・クラブ賞を受賞し

た元プロ野球選手を講師とする、少年野球の指導者を対象とした野球教室『三井ゴールデン・クラブ野球教室』をスタートさせました。

第1回目となる明治神宮外苑教室では、阿波野秀幸氏（近鉄OB）、大矢明彦氏（ヤクルトOB）、水上善雄氏（ロッテOB）、屋鋪要氏（巨人OB）と、トレーナーとして吉田直人氏（NSCA認定検定員）の5名が、100名近い受講者に向け、「守備」を中心とした野球の基本技術や理論、子どもたちがケガをしないための正しい練習方法やその指導方法について、講義や実技指導を行いました。

子どもを対象にした野球教室は数多くありますが、指導者を対象にしたものは珍しく、受講者から好評を博しています。

2014年には10回、2019年には20回の開催を数えました。第10回福岡教室、第20回越谷教室という節目の回では、王貞治氏がゲスト講師として参加。世界のホームラン王自らバッティングの秘訣を披露したほか、三井ゴールデン・クラブ賞を9回受賞している名ファーストとしての守備の意識などについて、参加者に熱く語りかけました。

また越谷教室では、三井広報委員会会員会社であるエムサービスの公認スポーツ栄養士による食事指導をカリキュラムに採り入れ、参加者から好評を博しました。コロナ禍で2020年以降は中止を余儀なくされていますが、状況を注視しながら再開に向けた準備を進めています。

今後も全国各地にて本教室を開催し、子どもたちが大好きな「野球」というスポーツに一生懸命取り組めるように、そしてケガをせず今後も長

2011年[平成23年]

- 三井ゴールデン・クラブ賞40周年を迎える。26 40周年の記念としてBSフジ特別番組「第40回三井ゴールデン・クラブ賞 ～球史を飾った名手たち～」、記念誌「三井ゴールデン・クラブ賞40年の軌跡」を制作。27

2012年[平成24年]

- 三井広報委員会創立40周年を迎える。40年のあゆみを振り返る記念誌「三井広報委員会40年史」を制作。

2013年[平成25年]

- 東日本大震災で被災した子どもたちへの教育支援を行う「公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン（CFC）」の活動に賛同し、寄付を実施。28



26 「三井ゴールデン・クラブ賞」40周年を記念し、表彰式には山本浩二氏、福本豊氏が来場



27 「三井ゴールデン・クラブ賞40年の軌跡」



28 CFCクーポン贈呈式(2014年3月)の様様

くプレーを続けていけるように、子どもたちの夢を応援していきたいと考えています。

東日本大震災で被災した子どもたちを支援

『チャンス・フォー・チルドレン』への寄付(2013～16)

2011年3月11日に発生した東日本大震災は甚大な被害をもたらし、復興に向けて三井グループ各社もさまざまな取り組みを行っていました。

そうしたなか、三井広報委員会は「公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン（以下、CFC）」への寄付を通じ、被災した子どもたちを支援することを決定。子どもたちの教育格差の解消を目指し、主に経済的な理由により塾や習い事などの学校外教育の機会を得られない子どもたちに“奨学クーポン”を提供するCFCに、2013年度から2015年度までの3カ年にわたって寄付を実施しました。

また寄付のみならず、2014年には、楽天野球団が主催する「がんばろう東北デー」として開催された東北楽天ゴールデンイーグルス対埼玉西武ライオンズの試合に、仙台の子どもたちや保護者40名を招待。試合観戦に加え、通常見ることのできないスタジアムのバックヤードや試合前の練習風景見学、三井ゴールデン・クラブ賞受賞選手との記念撮影も行い、日頃、教育クーポンを活用して勉強や習い事に励む子どもたちに、プロ野球の魅力を直に感じる特別課外体験の機会を提供しました。同イベントには翌年も協賛し、前年同様に40名を招待しています。

**日本の伝統工芸発展に取り組む「匠」を顕彰
『三井ゴールデン匠賞』を創設(2015～)**

2020年に予定されていた東京オリンピック・パラリンピックに向け、世界から日本への注目が高まるなか、三井広報委員会は日本の伝統工芸に着目。後継者不足などの課題を抱えている伝統工芸界において、受け継がれた技術を磨き、新たなアイデアを積極的に取り入れ、未来に向けて産業や地域の発展に貢献している担い手に、注目と評価が集まる機会を創出したいという想いのもと、2015年に『三井ゴールデン匠賞』を創設しました。

経済産業省、一般財団法人伝統的工芸品産業振興協会が後援となり、伝統工芸のみならずアートやデザイン分野等の有識者を審査員に迎え、日本が誇る伝統工芸文化の価値を発信していくことを目指しています。賞の揮毫は数々の題字を手掛けてきた、書道家の武田双雲氏によるものです。

第1回は、2015年9月から11月にかけて募集を行い、多数の個人・団体による応募のなかから、(株)岩鑄（代表＝岩清水晃氏〈受賞当時〉／南部鉄器／岩手県）、杉原吉直氏（(株)杉原商店／越前和紙／福井県）、立川裕大氏（(株)t.c.k.w / 伝統技術ディレクター）、(株)能作（代表＝能作克治氏／高岡銅器／富山県）、福島武山氏（九谷焼／石川県）の5組が「三井ゴールデン匠賞」を受賞。審査員により選出されるグランプリには能作が決定されました。また、受賞者のなかから、一般投票により「モストポ

2010年代

2014年 [平成26年]

- 特別ゲストに王貞治氏を迎え、第10回「三井ゴールデン・クラブ野球教室」を福岡で開催。²⁹
- CFCと協力し「がんばろう東北デー」に子どもたちを招待。³⁰
- CFCから感謝状を授与される。³¹

2015年 [平成27年]

- 日本の伝統文化の発展に寄与する取り組みを行っている担い手を表彰する「三井ゴールデン匠賞」を創設。³²



²⁹ 「三井ゴールデン・クラブ野球教室 福岡教室」での王貞治氏による指導の模様



³⁰ 子どもたちに野球観戦の機会を提供



³¹ CFCから感謝状を授与された



³² 第4回「三井ゴールデン匠賞」でモストポピュラー賞を受賞した宮本雅夫氏(右)に三井広報委員会・小野澤康夫委員長(左)から目録を贈呈

ピュラー賞」を選出する制度も設け、第1回受賞者からは岩鑄が選ばれました。

本賞は第4回まで隔年で開催され、合計20組の三井ゴールデン匠賞受賞者を選出。2021年度に実施された第4回では、審査員特別賞と奨励賞という新たな賞が設けられ、それぞれ2組が受賞しています。

本賞の公式サイトでは、過去の受賞者や最終選考まで残った候補者であるファイナリストの皆さんを紹介しているほか、受賞者の方々に話を伺う「匠を訪ねて」などを掲載しています。

三井広報委員会では、これからも日本の伝統工芸と、その発展のために尽くす「匠」たちを応援していきます。

50周年記念に特設ページ、動画を制作

三井広報委員会の姿を広く発信(2022)

三広会を発展的に解消し、1972年に発足した三井広報委員会。それから50年の間には、多様な事業を展開し、社会の繁栄と福祉に寄与してきました。2022年、三井広報委員会は50周年を迎えたことを記念し、公式サイト内に特設ページを設置。そのなかでは、これまでの歩みと、代表的な事業を振り返る動画コンテンツを設けています。

日本の現代文化を海外に紹介するという大きな使命を果たすべく、1983年から1998年までの16年間にわたり、世界18都市で開催した『クロスアップ・オブ・ジャパン』。

プロ野球界のタイトルのなかで唯一、守備によって獲得することができる賞であり、多くのプロ野球選手が目標にしていると話す『三井ゴールデン・グラブ賞』。

三井グループの相互理解を促進するため、さまざまな“場”で活躍する人や企業を紹介するコミュニケーション誌『MITSUI Field』。

そして、1673(延宝元)年に三井高利が江戸・日本橋で「越後屋呉服店」を開いて以来、350年にわたる歴史と伝統を積み重ねてきた三井グループが、同じように長い伝統を築いてきた“工芸”の分野において、未来に向かって発展していくための活動に取り組む方々を称えるために創設した『三井ゴールデン匠賞』。

三井ゴールデン・グラブ賞では、遊撃手・三塁手として通算10回本賞を受賞している宮本慎也氏(元東京ヤクルトスワローズ)に、本賞への想いや賞の価値について話を伺っています。

三井ゴールデン匠賞では、第4回の匠賞と、一般投票で選ばれるモストポピュラー賞を受賞した宮本雅夫氏(九谷焼/石川県)に、受賞の喜びや賞の理念に対する想いを話していただいています。ぜひご覧ください。

2020年代



33 「三井ゴールデン・グラブ野球教室 越谷教室」講師陣

2019年 [平成31年/令和元年]

- 特別ゲストに王貞治氏を迎え、第20回「三井ゴールデン・グラブ野球教室」を越谷(埼玉県)で開催。33



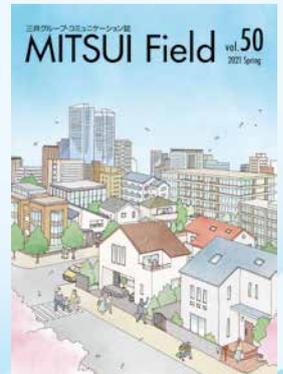
35 第50回「三井ゴールデン・グラブ賞」の表彰式には王貞治氏が来場

2021年 [令和3年]

- 「MITSUI Field」50号を発行。34
- 「三井ゴールデン・グラブ賞」50周年を迎える。35 50回記念企画「三井ゴールデン・グラブ レジェンズ」を実施。36

2022年 [令和4年]

- 「三井広報委員会」創立50周年を迎える。50年を振り返る特設サイトや記念誌(本誌)を制作。



34 2021年に50号を迎えた「MITSUI Field」



36 「三井ゴールデン・グラブ レジェンズ」の遊撃手部門で選ばれた井端弘和氏(左)に企画アンバサダーの里崎智也氏(右)から記念盾を贈呈

三井広報委員会50年のあゆみ

- 1961年** ● 1月1日、三井グループ8社により、三井広報委員会の前身である「三広会」が発足。
● 7月31日、テレビ番組「兼高かおる 世界の旅」の番組スポンサーが三井物産から三広会へ。
- 1970年** ● 4月、三井物産から「三井グラフ」が創刊。
- 1972年** ● 4月1日、三広会を発展的に解消し、「三井広報委員会」が発足。
- 1977年** ● 3月27日、同日放送分の「兼高かおる 世界の旅」がスポンサーとして最後の番組となり、4月3日からはテレビクイズ番組「世界をあなたに」をオンエア。
- 1978年** ● 4月2日、「世界をあなたに」に替わり「世界にかけの橋」の提供開始。
● 夏休みに「相模湖ピクニックランド」（神奈川県）と「三井グリーンランド」（福岡県）で、子どもたちに虫かご2万個をプレゼント。
- 1980年** ● 4月27日、提供テレビ番組「世界にかけの橋」で鳥飼美子氏のワンポイント英語コーナーを新設。
● 12月、「三井グラフ」通刊42号から三井広報委員会の発行となる。
- 1981年** ● 5月7日、霞が関ビル36階に三井グループのPRの場「三井スカイブルームナード」がオープンし、11日より無料公開。
- 1982年** ● 9月26日、同日放送の「世界にかけの橋」をもって同スポンサーを終了。
- 1983年** ● 5月7日、第1回「三井シンポジア・トゥモロウ」を大分市で開催。
● 9月14日～11月30日、第1回「クロースアップ・オブ・ジャパン」をサンフランシスコで開催。
- 1985年** ● 2月6日～4月14日、第2回「クロースアップ・オブ・ジャパン」をロンドンで開催。
● 11月17日～1986年2月28日、第3回「クロースアップ・オブ・ジャパン」をニューヨークで開催。
- 1986年** ● 4月20日～7月20日、第4回「クロースアップ・オブ・ジャパン」をミネアポリス(米国)で、9月1日～10月26日にはロサンゼルスで開催。
● 11月26日、三井広報委員会がスポンサーとなり、ダイヤモンドクラブ賞から「三井ゴールデン・クラブ賞」に名称を改め、12月10日に表彰式を開催。
- 1987年** ● 10月14日～29日、第5回「クロースアップ・オブ・ジャパン」をパリで開催。
- 1988年** ● 5月12日～6月17日、第1回「三井フェスティバル東京」を開催。
● 5月18日～7月3日、第6回「クロースアップ・オブ・ジャパン」をシドニーで開催。
● 10月、三井広報委員会企画のPR映画「三井300年の歩み」が完成。
- 1989年** ● 11月3日～12月17日、第7回「クロースアップ・オブ・ジャパン」をバンコクで開催。
● 成城大学、青山学院大学、学習院大学などの学園祭における街の清掃活動「CAMPUS SWEEPER 学園キャラバン隊」を応援。大学周辺の商店街などを清掃するというもので、地元の人々からも好評を得る。
- 1990年** ● 5月10日～6月10日、第2回「三井フェスティバル東京」を開催。
● 6月、JR有楽町駅に三井広報委員会の電飾看板を掲示。
● 8月31日、1981年から続いた「三井スカイブルームナード」終了。
● 9月27日～10月19日、第8回「クロースアップ・オブ・ジャパン」をトロント(カナダ)で開催。
- 1991年** ● 4月24日～5月9日、第9回「クロースアップ・オブ・ジャパン」をクアラルンプール(マレーシア)で開催。
- 1992年** ● 4月1日～30日、第10回「クロースアップ・オブ・ジャパン」をベルリンで開催。
● 5月21日～6月7日、第3回「三井フェスティバル東京」を開催。
● 三井広報委員会発足20周年として、11月2日に池袋(東京)で「山
- 下洋輔ピアノコンサート」および20周年記念レセプションを開催。
- 1993年** ● 4月27日～6月27日、第11回「クロースアップ・オブ・ジャパン」をリスボン(ポルトガル)で開催。
- 1994年** ● 5月6日～6月11日、第4回「三井フェスティバル東京」を開催。
● 9月27日～10月9日、第12回「クロースアップ・オブ・ジャパン」をアトランタ(米国)で開催。
- 1995年** ● 10月30日～12月17日、第13回「クロースアップ・オブ・ジャパン」をサンパウロ/リオ・デ・ジャネイロ(ブラジル)で開催。
- 1996年** ● 6月3日～15日、最後となる第5回「三井フェスティバル東京」を開催。
● 6月6日～30日、第14回「クロースアップ・オブ・ジャパン」をジャカルタ(インドネシア)で開催。
- 1997年** ● 2月8日～3月2日、第15回「クロースアップ・オブ・ジャパン」をニューデリー(インド)で開催。
- 1998年** ● 1月30日、「三井シンポジア・トゥモロウ特別企画『誰でもわかるオペラ入門～三枝成彰のトークとオペラアリアコンサート』」を東京で開催。3月をもって、「三井シンポジア・トゥモロウ」終了。
● 7月8日、三井広報委員会の国際文化交流支援活動が評価され、「外務大臣表彰」を授与される。
● 9月11日～10月3日、最後となる第16回「クロースアップ・オブ・ジャパン」をモスクワで開催。
● 12月16日、「三井コラボレーション」の国内第1弾、「国府弘子サウンドスケッチ in ジャパン(国府弘子+りんけんバンド)」を那覇で開催。
● 三井広報委員会ホームページ開設。
- 1999年** ● 6月9日、「三井コラボレーション『原田大郎CG in シンフォニー“メタボール”』」を東京で開催。
● 7月8日～16日に「三井コラボレーション」の海外第1弾を北京/上海で開催。

1999年 ● 7月24日、coba氏プロデュースの「三井コラボレーション『ミュージックスペース“テクノキャバレー”』」を新潟で開催。

● 10月13日、「三井コラボレーション『国府弘子サウンドスケッチ in ジャパン』」を札幌で開催。同時に第1回目となる「ふれあいマーケット」を開催。

● 11月21日「三井コラボレーション『リーディングドラマ“zelkova(ゼルカーヴァ)”』」を東京で上演。

2000年 ● 4月26日・27日、5月5日、「三井コラボレーション」の海外第2弾をライデン/アムステルダム(オランダ)で開催。

● 7月14日、「三井コラボレーション『国府弘子サウンドスケッチ in ジャパン』」を大阪で開催。

● 10月20日、coba氏プロデュースの「三井コラボレーション『光と音のページェント“天使は空から降ってくる”』」を福岡で開催。

2001年 ● 1月25日・26日、「三井コラボレーション『リーディングドラマ“天国の本屋”』」を東京で上演。

● 2月27日・28日、「三井コラボレーション『ドラマコンサート“ミッシング・ピース”』」を東京で上演。

● 5月24日～26日、「三井コラボレーション」の海外第3弾をロンドンで開催。

● 9月20日～30日、「三井コラボレーション『ジミー大西×ジェーン・バッカー エキシビジョン“Energy of Nature”』」をロンドンで開催。

● 11月20日、「三井コラボレーション『国府弘子サウンドスケッチ in ジャパン』」を長野で開催。

2002年 ● 3月28日～31日、「三井コラボレーション『リーディングドラマ“天国の本屋”』」を東京で上演。

2003年 ● 4月、文化・教育・福祉の支援プログラムとして「ふれあトリオ」をスタート。北海道江別市を皮切りに、年間全国10カ所以上の市町村で開催。

● 11月3日～30日、New York 日本ギャラリーにて開催の「ジミー大

西作品展 ～原始の眼～」(主催：NY日本クラブ・吉本興業)に協賛。

● 12月4日～27日、「リーディングドラマ『天国の本屋』」(出演：須賀貴匡・紺野まひる・ルー大柴)の再々演に特別協賛。

2004年 ● 映画「天国の本屋～恋火～」(配給：松竹、主演：竹内結子・玉山鉄二)の日本語字幕版制作に協賛。

2007年 ● 7月、200回目となる「ふれあいコンサート」を開催。2008年の終了までに約250公演、参加者6万人以上を数えた。

2008年 ● 三井グループおよびグループ各社の“人”に焦点を当てた社会貢献活動やさまざまな取り組みを総称したPR「三井ヒューマンプロジェクト」をスタート。

2009年 ● 1月、三井グループ社員の相互理解を深めるグループ・コミュニケーション誌「MITSUI Field」を創刊。

● 三井の事業精神や先見性・創造性をグループ各社にあらためて知っていただくことを目的に、DVD「三井のこころ」を制作。

2010年 ● 3月、三井ゴールデン・クラブ賞受賞歴のあるプロ野球OBによる指導者向け野球教室「三井ゴールデン・クラブ野球教室」をスタート。

2011年 ● 「三井ゴールデン・クラブ賞」が40周年を迎え、記念特別番組(BSフジ)と記念誌を制作。

2012年 ● 「三井広報委員会」発足40周年を迎える。

● 3月、第5回「三井ゴールデン・クラブ野球教室」を大阪で開催。

2013年 ● 東日本大震災で被災した子どもたちへの教育支援を行う「公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン(CFC)」の活動に賛同し、寄付を実施。

2014年 ● 9月、特別ゲストに王貞治氏を迎え、第10回「三井ゴールデン・クラブ野球教室」を福岡で開催。

● 10月、CFCと共同で子どもたちを東北楽天ゴールデンイーグルスの試合観戦に招待する特別課外体験企画を実施。

● 12月、CFCから感謝状授与。

2015年 ● 9月、日本の伝統文化の発展に寄与する取り組みを行っている担い手を表彰する「三井ゴールデン匠賞」を創設。第1回の募集を開始。

● 9月、CFCと共同で子どもたちを東北楽天ゴールデンイーグルスの試合観戦に招待する特別課外体験企画を2年連続で実施。

2016年 ● 3月、第1回「三井ゴールデン匠賞」贈賞式を開催。

● 11月、福井県越前市で開催された第33回伝統的工芸品月間国民会議全国大会に、「三井ゴールデン匠賞」ブースを出展。会場で受賞者によるシンポジウム実施。

2017年 ● 3月、第15回「三井ゴールデン・クラブ野球教室」を町田で開催。

2018年 ● 3月、第2回「三井ゴールデン匠賞」贈賞式を開催。

2019年 ● 9月、特別ゲストに王貞治氏を迎え、第20回「三井ゴールデン・クラブ野球教室」を越谷(埼玉県)で開催。

2020年 ● 3月に予定していた第3回「三井ゴールデン匠賞」贈賞式を、新型コロナウイルス感染拡大により中止。

2021年 ● 12月、第50回「三井ゴールデン・クラブ賞」表彰式を開催。特別ゲストとして王貞治氏が来場。記念企画「三井ゴールデン・クラブ レジェンズ」投票実施。

2022年 ● 1月、「三井ゴールデン・クラブ レジェンズ」贈呈式を開催。企画アンバサダーの里崎智也氏から、選出された選手を代表し井端弘和氏に金の革製記念盾を贈呈。

● 3月、第4回「三井ゴールデン匠賞」贈賞式を開催。

● 4月、「三井広報委員会」発足50周年を迎える。

三井広報委員会 最近の出来事

三井ゴールデン・グラブ賞 第50回表彰式



表彰式の模様。(前列左から)王氏、三井広報委員会・小野澤康夫委員長、日本プロフェッショナル野球組織・斉藤惇コミッショナー、(中列左から)オリックス・山本投手、ソフトバンク・甲斐選手、(後列左から)楽天・辰己選手、阪神・近本選手、オリックス・宗選手、中日・柳投手

2021年12月16日、記念すべき第50回を迎えた「三井ゴールデン・グラブ賞」の表彰式を、大手町三井ホールで開催しました。

コロナ禍での表彰式は出席者を限定して実施。両リーグを通じて最多得票を獲得した甲斐拓也選手（福岡ソフトバンクホークス、捕手、5年連続5回目）、初受賞組から柳裕也投手（中日ドラゴンズ）、近本光司選手（阪神タイガース、外野手）、山本由伸投手（オリックス・バファローズ）、宗佑磨選手（同、三塁手）、辰己涼介選手（東北楽天ゴールデンイーグルス、外野手）の6名に、ゴールデン・グラブトロフィーを贈呈しました。

また50回を記念し、特別ゲストとして王貞治氏（福岡ソフトバンクホークス会長）にご来場いただき、「かつては投打に比べ守備への関心は低かったが、三井ゴールデン・グラブ賞ができたことで意識が高まりました。日本野球界を大きく変えたと言ってもいいでしょう」と祝辞をいただきました。

三井広報委員会はこれからも、卓越した守備でチームを支える選手を表彰する「三井ゴールデン・グラブ賞」の提供を通じ、球界を応援してまいります。



山本投手に小野澤委員長からゴールデン・グラブトロフィーが手渡された



両リーグを通じ最多得票を獲得した甲斐選手

三井ゴールデン匠賞 第4回贈賞式



贈賞式の模様。(前列左から)築城氏、林氏、佐々木氏、松崎光正氏(松崎人形代表)、松山氏、宮本氏、羽塚順子氏・藤田昂平氏(クリエイティブ・シェルパ代表)、松本氏、(後列左から)審査員の福島武山氏・河井隆徳氏、三井広報委員会・小野澤委員長、外館和子審査員長、審査員の千宗屋氏
※鳥城紬保存会はオンラインで参加、審査員の清水眞澄氏は欠席

2022年3月18日、第4回「三井ゴールデン匠賞」の贈賞式を、大手町三井ホールで開催しました。

第4回の同賞では、「三井ゴールデン匠賞」5組、新設した「審査員特別賞」「奨励賞」各2組が受賞。贈賞式当日は8組の受賞者にご出席いただき、トロフィーと賞金を贈呈して、受賞を称えました。

「匠賞」の受賞者は鳥城紬保存会(岡山県/鳥城紬)、佐々木正博氏(香川県/漆芸)、株式会社松崎人形(東京都/江戸木目込人形)、松山好成氏(三重県/伊賀くみひも)、宮本雅夫氏(石川県/九谷焼)の5組。「審

査員特別賞」には築城則子氏(福岡県/小倉織)、林美光氏(秋田県/金銀銅漆目金)、「奨励賞」にはクリエイティブ・シェルパ(東京都/江戸仕立て都うちわ千鳥型)、松本光太氏(香川県/香川漆器)の各2組が選出されています。また、式では匠賞受賞者から一般投票で選ぶ「モストポピュラー賞」を発表。九谷焼の宮本氏が選出され、宮本氏は「これまで関わった全ての方と一緒にいただいた賞」と、喜びと感謝を語りました。

三井広報委員会はこれからも、日本の伝統工芸を発展させる取り組みを応援してまいります。

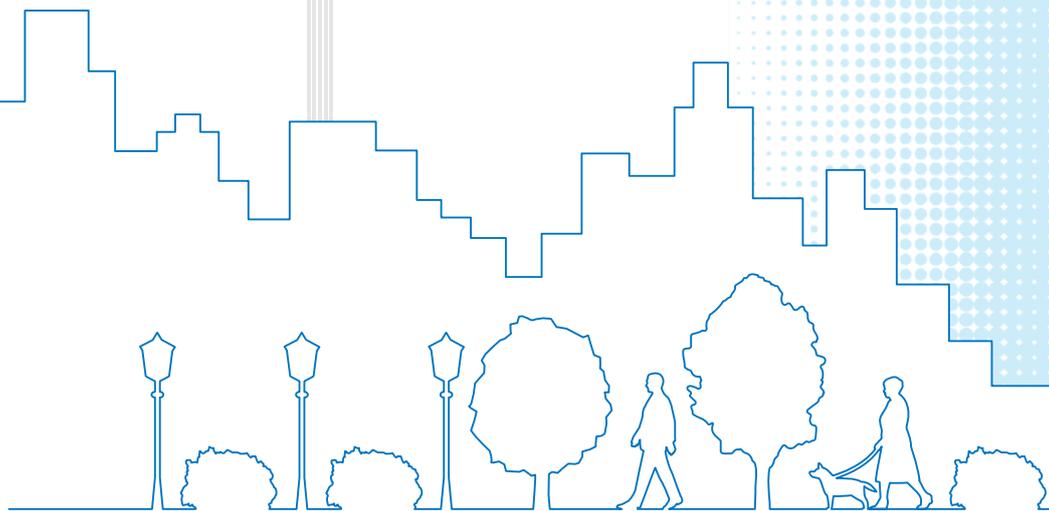


贈賞式ではコロナ禍で式を中止した第3回受賞者を招き、ゲストのサヘル・ローズさんから花束が贈られた



三井ゴールデン匠賞受賞者の中から一般投票で選ばれる「モストポピュラー賞」を受賞した宮本氏

三井広報委員会 会員会社紹介



会員会社プロフィール

三機工業	王子ホールディングス	東洋エンジニアリング	三井住友海上	三井住友トラスト・ホールディングス
新日本空調	デンカ	三井E&Sホールディングス	三井住友銀行	三井不動産
三井住友建設	三井化学	商船三井	三井住友ファイナンス&リース	三井倉庫ホールディングス
サッポロビール	日本製鋼所	三井物産	JA三井リース	エームサービス
東レ	三井金属	三越伊勢丹ホールディングス	大樹生命	

三機工業

〒104-8506
東京都中央区明石町8-1
聖路加タワー
TEL：03-6367-7041
<https://www.sanki.co.jp>



三機工業は、1925年の創業以来、建物にさまざまな設備を提供することで、「建物に生命を与える」仕事をしてきました。長年にわたり培ってきた技術を活かし、快適なビル空間・産業空間を支える空調・給排水・電気・情報通信などの建築設備、機能的な搬送を実現する機械システム、水処理、廃棄物処理設備を提供する環境システム、金融機関の統合・移転をトータルサポートするファシリティシステムなど幅広い事業領域を持つ「総合エンジニアリング」会社です。また、ビル設備（BA）と情報通信（IT）を統合し、ビルの省エネルギーを推進するスマートビルソリューション、厨房設備・食品工場などの食空間のトータルシステムの提案など、独自のエンジニアリングも展開しています。当社はこうしたさまざまな技術を有効に組み合わせお客様にご提案し、持続可能な社会作りに貢献していきます。

三井広報委員会の創立50周年に際し、心よりお祝い申し上げます。50回を数える三井ゴールデン・クラブ賞や日本の伝統を次世代につなぐ三井ゴールデン匠賞など、広報活動を通じた社会への貢献は、三井グループのブランドイメージの向上とともに社会的意義の大きい取り組みであると感じています。「人を大切に、多様な個性と価値を尊重することで社会を豊かにする」を次の世代にも継承するために、三井グループ各社のコミュニケーションの起点として社会と企業グループをつなぐ三井広報委員会のますますの発展を祈念いたします。

代表取締役社長 石田 博一



新日本空調

〒103-0007
東京都中央区日本橋
浜町2-31-1
浜町センタービル
TEL : 03-3639-2700
<https://www.snk.co.jp>



三井広報委員会の創立50周年に際し、心よりお祝い申し上げます。プロ野球ファンは誰でも知っている「三井ゴールデン・グラブ賞」、日本の伝統工芸を未来に引き継ぐ担い手たちを応援する「三井ゴールデン匠賞」等、各事業を通して「人の三井」の認知度を高めました。これらの活動を継続することが各分野に携わる人々の目標となり、目標に向かってさらに技術が磨かれ、次の時代に継承されていきます。弊社も三井広報委員会の一員として尽力したいと存じます。次の100周年に向け、三井広報委員会のますますのご発展を祈念申し上げます。

代表取締役社長 前川 伸二



新日本空調は、1930年の創業以来「技術のキャリア」との呼び声も高く、世界を席卷した高い技術とパイオニア精神は現在まで脈々と受け継がれております。日本における空調のパイオニアとして、多くの建物や施設で、付加価値の高い設備の施工により重要な役割を果たし、空調を核とした総合エンジニアリング企業として、さまざまな社会課題の解決に向けた事業を行っています。2019年10月に新たに「企業理念『使命』と『価値観』」の制定とともに、「ロゴマーク」も刷新し、将来起こり得る変化やその先の見通しに対して、柔軟かつ機敏に対応できる企業グループであるために、2030年を節目とした当社グループの10年ビジョン【SNK Vision 2030】を定めました。2020年代も社会やお客さまから信頼され、健全に発展を続ける『100年企業』へ向けた取り組みを推進し、さらなる企業価値向上を目指してまいります。

三井住友建設

〒104-0051
東京都中央区佃2-1-6
TEL : 03-4582-3000
<https://www.smcon.co.jp>



三井広報委員会の創立50周年に際しまして、心よりお祝い申し上げます。三井グループ各社が結集した三井広報委員会は、半世紀にわたり個々の企業では成し得ないスケールのさまざまな文化活動および広報活動を通じて、国際交流や地域社会の活性化に貢献され、社会の繁栄と福祉に寄与されてきました。あらためて敬意を表しますとともに、これからも未永く続く三井ブランドのイメージ向上を、当社も広報委員会の一員として、微力ながら尽力していく所存でございます。三井広報委員会、そして三井グループ各社のますますのご発展を祈念いたします。

代表取締役社長 執行役員社長 近藤 重敏



三井住友建設は、三井グループの総合建設会社として、土木・建築・海外を3本柱に事業展開しています。土木事業では、業界トップクラスの技術と施工実績を誇るPC（プレストレスト・コンクリート）橋梁を中心に、山岳トンネル、シールド、ダムなどの社会基盤整備に、先進の技術で取り組み続けます。またリニューアブル関連の技術にも定評があります。建築事業では、長年培ってきた超高層集合住宅や実績豊かな免制震技術を中心に、事務所ビル、商業施設、医療福祉施設や工場、倉庫など、お客さまのニーズに沿ったさまざまな建物を提供しています。海外事業では、東南アジア、インドを中心に、日系企業の進出支援やODA事業を通じた資本整備に取り組み、国際社会の発展に寄与します。これらの事業を通じて「暮らしを支えるもの作り」に取り組み、社会の発展に貢献してまいります。

サッポロビール

〒150-8522
東京都渋谷区恵比寿4-20-1
恵比寿ガーデンプレイス内
TEL : 0120-207-800
<https://www.sapporobeer.jp/>



三井広報委員会の創立50周年に当たり、心よりお祝い申し上げます。長きにわたり三井グループの広報活動や文化活動を通じ、幅広い分野でグループの発展、ひいては社会の発展に貢献し続けていることは、意義深いことであると感じております。また「三井サッポロ会」は三井広報委員会、三友新聞社ご支援のもと、グループ最大の異業種交流会として54年間で81回開催してまいりました。今後も力を合わせて、三井グループ各社がますます交流を深める場となるよう取り組んでいく所存です。三井広報委員会のさらなるご発展を祈念いたします。

代表取締役社長 野瀬 裕之



サッポロビールは「新しい楽しさ・豊かさをお客様に発見していただけるモノ造りを」を経営理念に掲げ、開拓使麦酒醸造所設立以来の、モノ造りへの想いや信念を忘れず将来に伝え、お酒と人との未来を創る酒類ブランドカンパニーを目指します。「サッポロ生ビール黒ラベル」と「エビスビール」の基幹ブランドをはじめ、個性豊かなビールブランドをもつ強みを生かし、全ての商品やサービスにより一層の磨きをかけていきます。新ジャンルの「サッポロ GOLD STAR」、RTD・RTSの「濃いめのレモンサワー」ブランドなども好評を博しています。海外では好調な「サッポロプレミアムビール」を中心に、北米市場、東南アジア市場でさらなる事業拡大を図ります。また、サステナブルな社会の実現に向けた経営をより一層推進し、持続可能な社会づくりに貢献してまいります。

東レ

〒103-8666
東京都中央区日本橋
室町2-1-1
日本橋三井タワー
TEL：03-3245-5111
<https://www.toray.co.jp>

TORAY
Innovation by Chemistry



三井広報委員会の創立50周年に際し、心よりお祝い申し上げます。三井広報委員会では、個社では成し得ない規模と内容で、三井グループならではの「人」にフォーカスしたさまざまな社会還元活動を展開しています。東レは従来から事業を通じた社会貢献を旨とし、「人を基本とする経営」を実践していますが、三井広報委員会の次代を見据えた諸活動には共通の理念を感じ、三井グループの一員として参画することに大きな意義を感じております。三井広報委員会のますますのご発展を祈念いたします。

代表取締役社長 日覺 昭廣



東レは、1926年に創業して以来、基礎素材メーカーとして、繊維、樹脂、ケミカル、フィルム、さらには炭素繊維複合材料、電子情報材料、医薬・医療、水処理・環境といったさまざまな分野において多くの先端材料、高付加価値製品を創出してきました。現在、日本を含む世界の29カ国・地域で事業を展開しており、ものづくりの中核である日本国内で創出した製品の用途開発を世界各地で行うことにより、グローバルな規模での持続的な成長サイクルを実現しております。今後も東レグループは、「安全・防災・環境保全」ならびに「企業倫理・法令遵守」を経営の最優先課題に位置づけるとともに、「わたしたちは新しい価値の創造を通じて社会に貢献します」という企業理念の下、社会に役立つ製品・サービスを提供することで、ステークホルダーの皆さまの期待に応えてまいります。

王子ホールディングス

〒104-0061
東京都中央区銀座4-7-5
TEL：03-3563-1111
<https://www.ojiholdings.co.jp>

領域をこえ 未来へ
OJI



このたびは創立50周年、誠にありがとうございます。貴会のさまざまな文化および広報活動を通じた国際交流や地域社会の活性化への貢献に敬意を表し、心より感謝申し上げます。50周年という節目の年に、弊社が歴史ある「三井ゴールデン・クラブ賞」の運営リーダーを務めさせていただくことは光栄であり、重責を感じております。弊社も来年、創立150周年を迎えます。貴会とともに、会員会社さまの力を結集して、三井グループの一層のイメージ向上と未来と世界への貢献のため、努力してまいります。貴会のますますのご発展を祈念いたします。

代表取締役社長 社長グループ経営委員 磯野 裕之



王子ホールディングスは1873年の創業以来、約150年以上にわたり事業領域を拡大し、成長を続けてきました。「革新的価値の創造」、「未来と世界への貢献」、「環境・社会との共生」を経営理念に掲げ、また、2022年5月には、存在意義（パーパス）、長期ビジョン、2022年度から2024年度までの中期経営計画を策定・公表しました。「森林を健全に育て、その森林資源を活かした製品を創造し、社会に届けることで、希望あふれる地球の未来の実現に向け、時代を動かしていく」を存在意義（パーパス）とし、「長期ビジョン」、「中期経営計画」では、グループ基本方針である『成長から進化へ』をモットーに、「環境問題への取り組み -Sustainability-」、「収益向上への取り組み -Profitability-」、「製品開発への取り組み -Green Innovation-」を進めてまいります。王子グループは、今後も持続可能な社会の実現に取り組んでまいります。

デンカ

〒103-8338
東京都中央区日本橋
室町2-1-1
日本橋三井タワー
TEL：03-5290-5055
<https://www.denka.co.jp>

Denka



デンカイノベーションセンター

三井広報委員会の創立50周年に際し、心よりお祝い申し上げます。1972年の委員会創立以降、時代変化のなかで長きにわたり社会の繁栄と福祉に寄与するさまざまな文化活動を続けてこられたことに敬意を表します。また、本活動に当社も参画し、三井グループのイメージ向上の一端を担っていることを誇らしく感じるとともに、今後も三井広報委員会の一員としてその一翼を担う所存です。引き続き、各社一丸となった広報活動の一層の充実に期待するとともに、三井広報委員会のますますの発展を祈念いたします。

代表取締役社長 今井 俊夫



デンカは1915年の創立以来、カーバイドを製造する技術を活かし、さまざまな製品を生み出してきました。現在では有機、無機の各種素材から電子材料、医薬に至る幅広い分野で事業を展開しています。2018年4月にスタートした経営計画「Denka Value-Up」では、企業の成長持続に必要な不可欠な「安全最優先」「環境への配慮」「人財の育成・活用」「社会貢献」を基本精神に掲げ、新たな成長戦略により、「スペシャリティの融合体「Specialty-Fusion Company」となり、「持続的成長」かつ「健全な成長」の実現を目指します。私たちは企業理念「The Denka Value」で掲げた、Denkaの使命「化学の未知なる可能性に挑戦し、新たな価値を創造（つくる）ことで、社会発展に貢献する企業となる」を胸に、社会から信頼される企業グループとして、未来に向け何をすべきかを考え、行動してまいります。

三井化学

〒105-7122

東京都港区東新橋1-5-2

汐留シティセンター

TEL : 03-6253-2100

<https://jp.mitsuichemicals.com>

三井広報委員会の創立50周年に際し、心よりお祝い申し上げます。三井グループ各社が参加し、個々の企業ではなし得ないスケールの文化および広報活動を行うために創立された三井広報委員会に当社が参画し、さまざまな活動を通じて三井ブランドのイメージ向上を図る一助となっているのは、非常に意義のあることと感じております。2022年は、三井化学も、発足から25周年を迎えます。次の50年、100年を三井広報委員会とともに歩んでいければと思います。三井広報委員会のますますの発展を祈念いたします。

代表取締役社長執行役員 橋本 修



三井化学の起源は1912年に遡ります。当時の社会課題であった食糧増産のため、日本で初めて石炭副生ガスから化学肥料原料を生産し、農業の生産性向上に大きく貢献しました。その後、石炭化学からガス化学へとテクノロジーを進化させ、1958年には日本初の石油化学コンビナートを築き、日本国内の産業界を牽引してきました。今では数多くの世界トップ製品を有しており、売上高1兆6000億円、世界約30か国、160社以上を抱えるグローバル企業へと成長しています。その事業ポートフォリオは、ライフ&ヘルスケア、モビリティ、ICT、ベーシック&グリーン・マテリアルズ分野と多岐にわたっています。三井化学は、今後も卓越したソリューションと「新たな顧客価値の創造」を通じ、社会課題の解決に貢献してまいります。

日本製鋼所

〒141-0032

東京都品川区大崎1-11-1

ゲートシティ大崎ウエストタワー

TEL : 03-5745-2001

<https://www.jsw.co.jp>

広島製作所

三井広報委員会の創立50周年に心よりお祝い申し上げます。社会が大きく変化する中で、一貫して人に焦点を当て飛躍してきたことは三井グループ全体にとって大変有益なことです。当社もその一端を担ってまいりましたが、これからも三井ブランドの構築に参画し、一企業ではなしえない価値創造に関わってまいりたいと思います。三井広報委員会の活動はグループを結束させる大きな力となっております。今後も、その力を意識して会員各社の皆さまと共に三井広報委員会を盛り立てていく所存です。三井広報委員会の更なるご発展を祈念いたします。

代表取締役社長 松尾 敏夫



日本製鋼所は100余年にわたり、国内外の皆さまのニーズに素形材と産業機械の最先端の技術でお応えし続けてきました。現在はプラスチックの基礎材料ペレットの製造から最終製品の成形に至るまでの各種プラスチック加工機械、レーザー応用製品を中心とした産業機械事業をグローバルに展開しております。また、第5世代移动通信システム「5G」の本格化により、ニーズの増加が期待される結晶加工事業の拡大にも注力しております。

当社はこれからも新素材と社会実装のための産業機械を開発し『Material Revolution (材料革命)』を通じて社会課題を解決する持続可能で豊かな社会の実現に貢献してまいります。

三井金属

〒141-8584

東京都品川区大崎1-11-1

ゲートシティ大崎ウエストタワー

TEL : 03-5437-8000

<https://www.mitsui-kinzoku.com>

三井広報委員会の創立50周年に際し、心よりお祝い申し上げます。三井金属グループはパーパス（存在意義）として、「探索精神と多様な技術の融合で、地球を笑顔にする。」を掲げております。三井広報委員会として三井グループ各社が力を結集し、さまざまな事業を行い社会への還元を図ることは、当社グループのパーパスとも合致する、非常に意義のあることと感じております。2024年に創業150年を迎える三井金属ですが、今後も三井広報委員会の活動に貢献してまいります。これからの三井広報委員会のますますの発展を祈念いたします。

代表取締役社長 納 武士



奈良時代養老年間の昔から1200年以上の歴史と東洋一の規模を誇った神岡鉱山。1874年、三井組がこの鉱山の経営を開始したことが当社事業の起源です。以来、国内外で鉱山開発・製錬事業を展開、さらにはさまざまな廃棄物から有価金属を回収するリサイクル製錬を展開・強化し、産業の基礎素材である亜鉛、銅、貴金属などを安定的に供給し続けています。また、「マテリアルの知恵を活かす」というスローガンのもと、幅広く事業展開しており、極薄銅箔や自動車用ドアロックなど、世界トップクラスのシェアを占める製品を多く有しています。さらに、二輪・四輪車向け排ガス浄化用触媒など、持続可能な社会に貢献できる事業を手掛け、次世代電池（全固体電池）材料の開発にも取り組んでいます。これからも三井金属は、価値ある商品によって社会に貢献していきます。

東洋エンジニアリング

〒275-0024
千葉県習志野市茜浜2-8-1
TEL：047-451-1111
<https://www.toyo-eng.com>



三井広報委員会の創立50周年に際し、心よりお祝い申し上げます。三井グループ各社が結集し、グループ全体のブランディング向上を実現してきた活動実績に敬意を表します。今後も各社がそれぞれの事業に邁進しつつ、一つの志を持ったグループとしてあり続けるために三井広報委員会は欠かせない存在であると認識しております。当社も“エンジニアリングで地球と社会のサステナビリティに貢献する”をミッションとし、微力ながら尽力してまいります。三井広報委員会の一層のご繁栄を心より祈念申し上げます。

取締役社長 永松 治夫



東洋エンジニアリングは、さまざまな国・地域でエネルギー開発案件や素材を供給するプラント建設プロジェクトを手掛けてきました。海外のグループ企業とグローバルネットワーク体制を構築し、石油や天然ガス利用に向けた産業施設や製造設備、電力供給や水資源活用などインフラストラクチャーの設計・調達・建設を行っています。関連する技術提供や、商業化支援、運転支援、コンサルティングに至るまで、お客様のビジネスシステムやバリューチェーンを最適化し、新しい企業価値を創出するための問題解決の提案と実現手段を提供してまいります。当社グループは、その使命である“エンジニアリングで地球と社会のサステナビリティに貢献する”を果たすために、技術を統合し全体システムの最適化を実現するエンジニアリングの遂行を通じて、社会に貢献することを目指しています。

三井E&Sホールディングス

〒104-8439
東京都中央区築地5-6-4
TEL：03-3544-3147
<https://www.mes.co.jp>



三井広報委員会の創立50周年に際し、心よりお祝い申し上げます。歴史ある“三井”のブランドをさらに高めるべく半世紀にわたり積み重ねられてきた三井広報委員会の活動は非常に意義深く、三井グループ各社が集いスケールの大きな事業を行ってきたなか、当社もその一助となるべく名を連ねていることを誇りに思います。当社は創業より今日まで100年余歩んでまいりましたが、さらに次の10年、50年、100年…と、三井グループ各社、そして三井広報委員会とともに未来へ進みたいと思います。本会のますますの発展を祈念いたします。

代表取締役社長 高橋 岳之



1917年（大正6年）、旧三井物産造船部として誕生した三井造船は、創業から101年目を迎えた2018年4月、持株会社体制への移行とともに商号を「三井E&Sホールディングス」に変更。「三井E&Sグループ」として新たな一歩を踏み出しました。「E&S」は、三井造船のルーツであるEngineering & Shipbuildingを由来としています。さらにこれからは「エンジニアリング“Engineering”とサービス“Service”を通じて、人に信頼され、社会に貢献する」という新たな企業理念のもと、ディーゼルエンジン・船用推進システム、コンテナクレーン・港湾物流システムをはじめとした「マリン」領域を軸にビジネスを展開していきます。脱炭素社会の実現、人口縮小社会の課題解決など、私たちは「グリーン&デジタル」の切り口から、社会の進化と持続を目指しています。

商船三井

〒105-8688
東京都港区虎ノ門2-1-1
<https://www.mol.co.jp>



三井広報委員会の創立50周年に際し、心よりお祝い申し上げます。今年度当社グループは企業価値向上と持続可能な社会の実現に向けて「MOL Sustainability Plan」を策定しました。社会課題への取り組みにおいては個々の企業努力のみではなく、各社が協力して目標を達成していくことが鍵となります。三井グループ各社の知恵と力を集結させ、三井ブランド向上を目指す委員会の活動は、今後一層重要になると感じております。三井広報委員会がこの先の50年、100年に向けてさらなる発展を遂げるよう祈念し、その一翼を担えるよう微力ながら力を尽くしてまいります。

代表取締役社長 橋本 剛



商船三井は、鉄鉱石、石炭、木材チップなどを運ぶ積み船、原油を運ぶタンカー、液化天然ガスを運ぶLNG船、自動車船、さまざまな製品を運ぶコンテナ船などによる海上輸送事業、洋上での石油・天然ガス開発等に携わる海洋事業、風エネルギーを用いた風力発電やその周辺事業に加え、海と陸を結ぶターミナル・ロジスティクス事業など、多彩な分野で時代の要請に応えるグローバル企業グループです。海運業を中心にさまざまな社会インフラ事業を展開し、環境保全をはじめとした変化する社会のニーズに技術とサービスの進化で挑んでいます。世界最大級の船隊と、130年余の歴史、経験、技術を持って展開する活動に、国境はありません。

私たちは、強くしなやかな企業グループを目指し、青い海から人々の毎日を支え、豊かな未来をひらき、全てのステークホルダーに新たな価値を届けてまいります。

三井物産

〒100-8631
東京都千代田区大手町1-2-1
<https://www.mitsui.com>



三井物産は、社会経済環境そして人々の価値観の劇的な変化のなかにあっても、常に多岐にわたる社会課題やお客さま・パートナーの皆さまのニーズに真摯に向き合い、「トレーディング」と「事業経営・事業開発」の両輪での成長を軸とするビジネスに取り組んでいます。

それぞれの現場で蓄積された知見をもとに、マーケティング、ロジスティクス、ファイナンス、リスクマネジメント、マネジメント、デジタルトランスフォーメーションといったさまざまな機能とグローバルなネットワークとを掛け合わせ、新たな価値を創出し、日本を含むグローバルなビジネス・コミュニティの責任あるメンバーとして、ステークホルダーの皆さまとともに、環境と調和した持続可能な未来作りに貢献し続けます。

三井広報委員会が創立50周年を迎えられたこと、心よりお祝い申し上げます。グループの力を結集し取り組んできたさまざまな広報活動・文化活動は、三井グループにとって貴重な財産であると同時に、社会に寄与する意義あるものと感じています。社会情勢や価値観が大きく変化するなか、50年続けてきた歩みを止めることなく、豊かな未来作りへの貢献を目指し、今後ますますの発展を遂げることを祈念いたします。

代表取締役社長 堀 健一



三越伊勢丹ホールディングス

〒160-0023
東京都新宿区西新宿3-2-5
三越伊勢丹西新宿ビル
TEL：050-1704-0684
<https://www.imhds.co.jp/>



三越伊勢丹グループは、日本の誇り、世界への発信力を持ち、高感度上質消費において最も支持され、お客さまの暮らしを豊かにする“特別な”百貨店を中核とした小売りグループを目指します。私たちは、いつの時代もお客さまの目線を起点に「世界初」、「日本初」、「業界初」の取り組みをはじめとしたフロンティアスピリッツを携え、創業以来現在に至るまで「暖簾への誇り」を胸に「高い」の本質を追い求めています。先人から受け継いだ「感性と科学」を掛け合わせ、キュレーションと比較購買のできる“非”日常の高感度な空間、そして細部に魂を込めた丁寧かつ繊細で質の高いおもてなしで、世界中の人々の「好き」をつなげてまいります。高感度上質消費を拡大・席捲し、最高の顧客体験を提供してまいります。

三井広報委員会創立50周年という喜ばしい節目に、心よりお祝い申し上げます。長きにわたり三井グループのブランドイメージ向上に貢献されてきた功績を讃えるとともに、当社もその一翼を担えることに大きな意義を感じております。当社・三越も、2023年に創業350周年を迎えます。日本橋本店は、“伝統・文化芸術・暮らし”を強みとした店舗として、伝統・文化を大切に守りつつ常に挑戦を続け、“憧れと共感”の象徴へと進化してまいります。三井広報委員会のさらなるご発展と、三井グループ各社のますますのご繁栄を衷心より祈念申し上げます。

取締役 代表執行役社長 CEO 細谷 敏幸



三井住友海上

〒101-8011
東京都千代田区神田駿河台3-9
TEL：03-3259-3111
<https://www.ms-ins.com>

立ちどまらない保険。

MS&AD

三井住友海上



三井住友海上は2001年10月に、三井海上と住友海上の合併により誕生しました。

2010年4月には、三井住友海上グループ、あいおい損保、ニッセイ同和損保が経営統合し、「MS&ADインシュアランスグループ」が発足しました。

三井住友海上は、グループの中核事業会社として、「グローバルな保険・金融サービス事業を通じて、安心と安全を提供し、活力ある社会の発展と地球の健やかな未来を支える」ことを経営理念に、その実現に向けて取り組んでいます。

今後も、三井住友海上は、社会環境の変化に伴う新しいリスクや多様化するお客さまニーズに迅速かつ柔軟に対応した商品・サービスを提供していきます。

三井広報委員会の創立50周年に際し、心よりお祝い申し上げます。三井ブランドのイメージ向上という大きな目標に向け、三井グループ各社が結集し総合力を発揮している三井広報委員会の事業に心より敬意を表します。昨年、三井住友海上も創立20周年を迎えました。引き続き、損害保険という当社事業を通じて社会への貢献を果たすとともに、三井広報委員会の一員として三井ブランドの向上に尽力する所存でございます。次の10年、100年に向けて、三井広報委員会、そして三井グループ各社がますますご発展を遂げるよう祈念いたします。

代表取締役会長 会長執行役員 原 典之



三井住友銀行

〒100-0005
東京都千代田区丸の内1-1-2
TEL：03-3282-1111
<https://www.smbc.co.jp>



三井広報委員会の創立50周年に際し、心よりお祝い申し上げます。50年という長期にわたり、三井グループ各社が会社の垣根を越えて連携し、発展してきたことを大変喜ばしく思います。今後、企業による社会貢献への関心がますます高まっていくなか、三井広報委員会が行っているスポーツ支援や文化活動支援等の事業は、一層重要性を増していくと考えております。これからも会員各社で一致団結し、三井広報委員会を通じて社会的に意義のある活動を続けていかれるよう祈念いたします。

頭取 CEO（代表取締役） 高島 誠



三井住友銀行（SMBC）は、2001年4月にさくら銀行と住友銀行が合併して発足しました。2002年12月、株式移転により持株会社である三井住友フィナンシャルグループ（SMFG）を設立し、その子会社となりました。2003年3月には、わかしお銀行と合併しています。三井住友銀行は、国内有数の営業基盤、戦略実行のスピード、さらには有力グループ会社群による金融サービス提供力に強みを持っています。三井住友フィナンシャルグループのもと、ほかの傘下グループ企業と一体となって、お客さまに質の高い複合金融サービスを提供していきます。

三井住友ファイナンス&リース

〒100-8287
東京都千代田区丸の内1-3-2
TEL：03-5219-6400
<https://www.smfl.co.jp>



三井広報委員会の創立50周年を心よりお慶び申し上げます。「人を大切に、多様な個性と価値を尊重することで社会を豊かにする」という理念のもと、さまざまな文化活動や広報活動を通じて三井グループのブランドイメージ向上に貢献されてきたものと存じます。これからも三井グループ各社とともに三井の理念・活動を伝え続けていただくことを期待しております。当社も三井グループの一社として、未来に向けて持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

代表取締役社長 橋 正喜



三井住友ファイナンス&リースは、国内トップクラスの総合リース会社です。SMBCグループと住友商事グループの総合力を背景に、お客さまの設備投資や販売活動に役立つさまざまな金融サービスを提供しています。

世界屈指の規模を誇る航空機リース事業、賃貸・開発からアセットマネジメント、サテライトオフィスなどを展開する不動産事業、脱炭素社会の実現に貢献する環境エネルギービジネス、デジタルイノベーションによる新たなビジネス展開など、付加価値の高いサービスを提供しています。

「お客さまの最良のビジネスパートナー」を目指し、金融の枠にとどまらないサービスを提供することで、お客さまと社会の持続的な発展に貢献してまいります。

JA三井リース

〒104-0061
東京都中央区銀座8-13-1
銀座三井ビルディング
TEL：03-6775-3000
<https://www.jamitsuilease.co.jp>



三井広報委員会さまが創立50周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。この50年で経済社会は大きく変貌し、当社も含めた「三井」に関わる企業もさまざまに形を変える中、三井ブランドを発信する三井広報委員会さまの担う役割はますます重要になるものと存じます。「三井」の事業精神・先見性・創造性は、当社の経営理念「Real Challenge, Real Change」にも反映されており、これまで以上にそれらを発揮し、三井ブランドの発展に貢献していく所存です。50周年を大きな節目として、今後のさらなるご発展を心よりお祈りいたします。

代表取締役 社長執行役員 新分 敬人



JA三井リースは、三井グループ各社とJAグループの出資により設立された総合リース会社です。農林水産分野における独自展開や製造設備、輸送機器、不動産などのアセットビジネスにおける専門性・オリジネート力を強みとし、社内外のネットワークを「つなぐ、つなげる」ことにより、金融の枠組みを超えたソリューションを国内外のお客さまに提供しております。

デジタルトランスフォーメーションや新しい生活様式の進展など変化の激しい時代において、企業が直面する課題も多様化・複雑化しておりますが、JA三井リースは、経営理念「Real Challenge, Real Change」に掲げる「より良い社会と未来」の実現のため、お客さまのビジネスへの思いに寄り添い、ともに課題解決に向けて挑戦を続けてまいります。

大樹生命

〒135-8222
東京都江東区青海1-1-20
TEL : 03-6831-8000
<https://www.taiju-life.co.jp/>



三井広報委員会が50周年を迎えられましたこと心よりお慶び申し上げます。創立以来永きにわたり、関係者の皆さまのご尽力により、さまざまな文化活動ならびに広報活動を通じて社会に貢献されてきましたことに深く敬意を表します。当社も三井広報委員会の前身である三広会への参画から今日に至るまで、その理念に賛同し、ともに歩んでまいりました。今後も微力ながら、会員各社の皆さまと社会の繁栄と福祉に寄与していく所存です。今後とも三井広報委員会ならびに会員各社の皆さまのますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。

代表取締役社長 社長執行役員 吉村 俊哉



1927年に「三井生命保険株式会社」として創業した当社は、2016年4月に日本生命保険相互会社との経営統合による新体制を発足し、2019年4月に「大樹生命保険株式会社」に社名を変更しました。社名の「大樹」には、「しっかりとお客さまを守り、よりそっていく」という生命保険会社として大切にしている想いを重ね合わせ、「大樹」のように「しっかりと大地に根を張り、晴れの日も雨の日もしっかりとお客さまを守り、多くの人が集まっていく保険会社を目指そう」という想いを込めました。

これからも当社は、お客さまの「BESTパートナー」として、さまざまなニーズに応える保険商品の提供やサービスの向上に取り組むとともに、生命保険会社としての社会的使命を全うし、全てのステークホルダーの方々にご安心を提供できる生命保険会社となることを目指してまいります。

三井住友トラスト・ホールディングス

〒100-8233
東京都千代田区丸の内1-4-1
TEL : 03-6256-6000
<https://www.smth.jp>



三井広報委員会の創立50周年、誠におめでとうございます。広報活動等を通じて三井グループのより一層のイメージ向上を目指すという行動理念のもと、三井グループ各社が力を結集し、社会の繁栄と福祉に寄与してきたさまざまな活動は、一朝一夕に成し得るものではなく、ひとえに三井広報委員会ならびに会員各社の弛まぬ努力の賜物であると考えます。そうした伝統のある会に当社が参画させていただいてきたことは、非常に意義のあることと感じております。三井広報委員会が、今後ますますご躍進されることを心よりお祈りいたします。

三井住友信託銀行 取締役会長 橋本 勝



2011年4月、中央三井トラスト・ホールディングスと住友信託銀行が経営統合し、持株会社「三井住友トラスト・ホールディングス株式会社」は発足しました。また、2012年4月、傘下の信託銀行3社の合併により、新たに「三井住友信託銀行」が誕生しました。

三井住友トラスト・グループでは、グループの存在意義（パーパス）「信託の力で、新たな価値を創造し、お客さまや社会の豊かな未来を花開かせる」を社員一人ひとりが胸に抱き、ステークホルダーの皆さまの期待に応え、持続可能な社会の実現と、当グループの持続的かつ安定的な成長に向けて、全力を尽くしてまいります。

三井不動産

〒103-0022
東京都中央区日本橋室町2-1-1
TEL : 03-3246-3131
<https://www.mitsuifudosan.co.jp>



三井広報委員会の創立50周年に、心よりお祝い申し上げます。三井グループ各社が結集し、世に広く知られる「三井ゴールデン・クラブ賞」をはじめ、三井グループのブランド向上を目指したさまざまな文化活動や広報活動を、スケール感を持って行う三井広報委員会に参画できることは、当社としても大変意義があることと考えております。今後も三井広報委員会とともに歩みを進め、三井グループの価値向上に貢献してまいりたいと考えております。三井広報委員会の一層の発展を祈念いたします。

代表取締役社長 菰田 正信



三井不動産は、旧三井合名会社所有の不動産経営を主たる目的として、1941年に設立されました。その後、時代の変化に対応し、オフィスビル、商業施設、住宅、ホテル・リゾート、物流施設、資産活用コンサルティングなどの不動産事業を中心に、国内外の幅広い分野でグループ事業を展開しています。現在、グループ長期経営方針「VISION 2025」にもとづき、不動産業そのもののイノベーションとさらなるグローバル化を推進しています。

当社グループは、これまでも「&」マークに象徴される「共生・共存」「多様な価値観の連繋」「持続可能な社会の実現」の理念のもと、ESG課題に対するさまざまな取り組みを行ってまいりました。

今後もグループ社員一丸となり、街づくりを通して持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

三井倉庫ホールディングス

〒105-0003
東京都港区西新橋3-20-1
TEL : 03-6400-8000
<https://www.mitsui-soko.com>



三井倉庫
ホールディングス



三井倉庫グループは、1909年の創業以来、多様化する社会やお客さまのニーズに100年以上にわたりお応えし続けております。日々の快適な生活を支えているさまざまな製品や情報資産などを大切にお預かりするという倉庫業で培ったDNAをもとに進化を続け、現在では製造工程における構内物流から、陸・海・空の輸送、保管から配送など、物流の川上から川下まで全てのニーズに対応し得る物流機能を総合的に揃えるに至りました。

私たちは常にお客さまの視点に立ち、お客さまが考える「価値」を共有し、お客さまの課題に真摯に向き合い、ともにより良い社会の実現を目指す総合物流企業であり続けたいと考えております。お客さまから信頼され、最初に相談していただける「ファーストコールカンパニー」となるべく、三井倉庫グループは丸となってこれからも皆さまとともに歩んでまいります。

三井広報委員会創立50周年に際し、心よりお祝い申し上げます。広報が果たす役割や情報が伝わるスピード、規模、そして伝達手段は、この50年の間に大きく変貌し、今も日々変化しています。しかしながらこれまでがそうであったようにこれからも三井グループの持つ魅力と価値に変わりはなく、そのことを広く報せ続けるという貴委員会の果たす役割にも変わりはありません。グループの進化を支えるその活動に対し、当社がこれからも微力ながら貢献させていただける喜びを感じています。三井広報委員会のますますのご発展を祈念いたします。

代表取締役社長 古賀 博文



エームサービス

〒107-0052
東京都港区赤坂2-23-1
アークヒルズフロントタワー
TEL : 03-6234-7500
<https://www.aimservices.co.jp>



エームサービスは、1976年に三井グループ企業と米国アラマーク社の合併による給食事業会社として設立。オフィス・工場から始まった事業領域は、病院・高齢者向け施設、学校、会議・研修施設、スタジアム・エンターテインメント施設におけるフード&サポートサービスやリフレッシュメントサービスへと拡がり、食の提供から、食を通じたホスピタリティを提供する企業へと発展。今日では、グループ全体で全国約3,900カ所の施設において、1日約130万食の食事やサービスを提供しています。

当社の従業員一人ひとりが、ブランドコンセプトである「Touch your heart ~「ありがとう」の数だけ、私たちがいる～」を胸に、社会に役立つ「ホスピタリティサービス・カンパニー」を目指してまいります。

三井広報委員会が創立50周年を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。「人の三井」という三井グループらしさをベースに「人を大切に、多様な個性と価値を尊重することで社会を豊かにする」ことを目的としたさまざまな活動を通じて、参画企業として三井グループのイメージ向上を図る一助となれることに大きな意義を感じております。この創立50周年を一つの節目として、三井広報委員会ならびに三井グループ各社のますますの発展を祈念いたしまして、ご祝辞とさせていただきます。

代表取締役社長 小谷 周



休會会社

- 西日本電線
- 三井ホーム
- 三井三池製作所
- 太平洋セメント
- 三井農林
- BIPROGY
- 三井不動産リアルティ

三井広報委員会50年史

2022年11月30日発行



発行：三井広報委員会



三井広報委員会 事務局

〒107-0052 東京都港区赤坂3-11-3 赤坂中川ビル3F

[URL] <https://www.mitsuipr.com/>



制作：(株)三友新聞社

制作協力：(株)青丹社



三井広報委員会

三機工業
新日本空調
三井住友建設
サッポロビール
東レ
王子ホールディングス
デンカ
三井化学
日本製鋼所
三井金属
東洋エンジニアリング
三井E&Sホールディングス
商船三井
三井物産
三越伊勢丹ホールディングス
三井住友海上
三井住友銀行
三井住友ファイナンス&リース
JA三井リース
大樹生命
三井住友トラスト・ホールディングス
三井不動産
三井倉庫ホールディングス
エムサービス